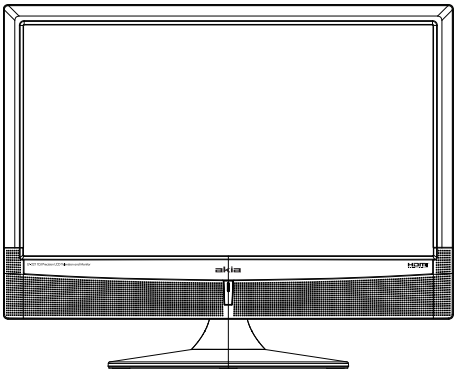
取扱説明書



地上デジタルチューナー内蔵
ハイビジョン液晶テレビ

型名

22FT11J-B

19HT10J-B

16HT01J-B

はじめに

機器の準備をする

テレビを見る

一歩進んだ使いかた

その他の情報

地上 DIGITAL

- BS・110 度 CS デジタル放送には対応しておりません。
- データ放送、双方向通信には対応しておりません。

お買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意」（☞ 4 ページ）は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになった後は、保証書とともにいつでも見ることができる場所に保管してください。

目次

はじめに 3
- 安全上のご注意 4
  - 警告（移動、設置） 4
  - 警告（電源コード・プラグ） 6
  - 警告（使用） 7
  - 警告（乾電池） 7
  - 注意 8
  - 注意（乾電池） 9
  - 注意（廃棄） 9
- 使用上のご注意・お手入れについて .. 10
- 付属品 12
- 本書の読みかた 13
  - 説明のしかたについて 13
  - アイコンについて 13
- 各部の名前 14
  - 本体操作部 (22FT11J-B) 14
  - 本体操作部 (19HT10J-B) 15
  - 本体操作部 (16HT01J-B) 16
  - 本体接続部 (22FT11J-B) 17
  - 本体接続部 (19HT10J-B) 18
  - 本体接続部 (16HT01J-B) 19
  - リモコン 20
- デジタル放送について 22
  - デジタル放送の特徴 22
  - 本機で視聴可能なデジタル放送の種類 23
  - デジタル放送を視聴するための準備 23

機器の準備をする 25
- 設置のしかた 26
  - 設置の手順 26
  - B-CAS カードを入れる 27
- リモコンについて 28
- アンテナの接続 29
  - アンテナを接続する 29
- 他の機器との接続 30
  - DVD プレーヤーなどを接続する 30
  - パソコンを接続する 32
  - AV アンプなどを接続する 33
  - ヘッドホンを接続する 33
- 電源コードの接続 34
  - 接続する 34
  - 電源に関するご注意 34

テレビを見る 35
- 電源と音量 36
- テレビを見るための準備 37
  - デジタル放送を見るための準備 37
  - アナログ放送を見るための準備 37
- チャンネルを選ぶ 38
- デジタル放送を楽しむ 39
  - 共通の操作 39
  - デジタルメニューの操作 41
  - 基本設定 42
  - 機器設定 44

一歩進んだ使いかた 45
- つないだ機器を使う 46
  - つないだ機器の映像を見る 46
  - つないだ機器を通して音声を聞く 47
- 便利な機能 48
  - 画面と音の簡易設定 48
- 設定メニューを使う 50
  - 設定メニューについて 50
  - 映像設定 50
  - 音声設定 53
  - その他設定 54
  - チャンネル設定 55
  - VGA 設定 57

その他の情報 59
- 故障かな？と思ったら 60
  - お問い合わせの前に 60
  - 原因と対策 60
- 用語の解説 64
- 主な仕様 66
- アナログ放送チャンネル地域番号 70
- 保証とアフターサービス 72

はじめに

この章では、本機をご利用いただく上での注意事項や付属品の説明など、最初に知っておいていただきたい内容を記載しています。

●安全上のご注意 P4

●使用上のご注意・お手入れについて P10

●付属品 P12

●本書の読み方 P13

●各部の名前 P14

●デジタル放送について P22

安全上のご注意

ご使用の前に本書、特に「安全上のご注意」をよくお読みいただき、正しく安全に使用してください。

この取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。これらは、あなたや他の人々への危害や、財産の損害を未然に防ぐための表示です。危害や損害の内容や程度に応じて、表示を以下のように区分しています。
内容をよく理解していただいてから本文をお読みいただき、記載事項をお守りください。

⚠ 警告 この内容をお守りいただかないと、人が死亡や大けがに至るような、重大な事故が起こる可能性があります。

⚠ 注意 この内容をお守りいただかないと、人のけがや財産の損害をまねくことがあります。

図記号の意味（例）

気をつけていただきたいという記号です。

してはいけないという記号です。

していただきたいという記号です。

⚠ 警告（移動、設置）

正しい方法で運搬 / 移動する

誤った方法で運搬したり移動したりすると、本機が落下し、打撲や骨折をしたり、大けがをすることがあります。運ぶときは、衝撃を与えないようにしてください。落下や破損などにより、大けがの原因となります。
テレビの底面を持つときは、後ろ側から手を回してしっかりと持ってください。
修理や引っ越しなどで本機を運ぶ場合は、お買い上げ時に本機が入っていた箱と、クッション材を使ってください。

運搬 / 移動するときは接続されている線などをすべて外す

本機を運ぶときは、本機に接続されている電源プラグやケーブル等を全てはずしてください。電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

使用・設置場所について

電源コンセントに容易に手が届く場所に置き、何か異常が起こったときは、すぐに電源プラグを抜くようにしてください。暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。適度の明るさの中でご覧ください。また、連続して長い時間、画面を見ていることも目を疲れさせます。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
・あお向けや横倒し、逆さまにしない。
・棚や押入の中に置かない。
・ホットカーペットの上に置かない。
・布をかけない。

⚠ 警告（移動、設置）（つづき）

周囲に間隔を空ける

周囲に間隔を空けないで設置すると、通気孔がふさがって内部に熱がこもり、火災や故障の原因となります。下記以上の間隔を空けて、熱がこもらないように設置してください。
・上部：30 cm
・左右：10 cm
・下部：10 cm（壁掛けの場合）
・背面：6 cm

壁に取り付ける場合は、必ず専用の壁掛けユニットを使用し、専門の業者に取り付けてもらう

設置時は設置関係者以外近づかない

専門業者以外の人が取り付けたり、壁への取り付けが不適切だと、本機が落下するなどして、打撲や骨折など大けがの原因となることがあります。

次のことを守って、スタンドや壁掛けユニットに本機を設置する

誤った取り付け方法で設置すると、本機が転倒または落下し、大けがをすることがあります。
・壁掛けユニットの取扱説明書の取り付け方法を必ず守る。
・転倒防止の処置を必ず行う。転倒防止の処置をしないと、本機が倒れてけがの原因となることがあります。スタンドや床、壁などの間に、適切な転倒防止の処置を行ってください。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、本機が落ちたり倒れたりしてけがの原因となります。平らで充分に強度があり、落下しない所に置いてください。

乗り物の中や船舶の中などで使用しない

移動中の振動により、本機が転倒したりして、けがの原因となることがあります。塩水をかぶると、発火や故障の原因となることがあります。

湿気やほこり、油煙、湿気の多い場所や、虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、熱器具の近くに置かない

火災や感電の原因となることがあります。銭湯や温泉の脱衣場などに設置すると、温泉に含まれる硫黄などにより、硫化したり、高い湿度で本機が故障したりすることがあります。

本機を医療機器の近くに設置しない

医療機器の誤動作の原因となることがあります。

屋外や窓際で使用しない

雨水などにさらされ、火災や感電の原因となることがあります。また、直射日光を受けると、本機が熱を持ち、故障することがあります。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることがあります。

水のある場所に置かない

水が入ったり、ぬれたり、風呂場で使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際でのご使用は特にご注意ください。

本機の表面が割れたときは、電源プラグをコンセントから抜くまで本機に触れない

電源プラグをコンセントから抜かずに本機に触れると、感電の原因になることがあります。

目や口に液晶を入れない / ガラスの破片に触れない

液晶パネルが破損すると、破損した部分から液晶（液状）が漏れたり、ガラスの破片が飛び散ることがあります。この液晶やガラスの破片に素手で触れたり、口に入れたりしないでください。ガラスの破片に触れるとけがをするおそれがあります。また、漏れた液晶に素手で触れると中毒やかぶれの原因となります。臭いをかぐこともやめてください。誤って目や口に入ったときは、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告（電源コード・プラグ）

コンセントや配線機器の定格を超える使いかたや、交流 100V（50/60Hz）以外では使用しない

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱により、火災の原因となります。海外などで異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけたり、加工したり、ねじったり、引っ張ったり、無理に曲げたり、加熱したりしない

電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線）交換をご依頼ください。そのまま使用すると、コードが破損して、火災・感電の原因となります。

電源コードに重いものを載せたり、本機の下敷きにしたりしない

火災・感電の原因となります。

ゆるいコンセントに接続しない

電源プラグは、根本までしっかりと差し込んでください。根本まで差し込んでもゆるみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因となることがあります。電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

電源プラグをつなぐのは、他機器との接続が終わってから

コンセントに差したまま他機器と接続すると、感電の原因になることがあります。他機器との接続が終わった後に、電源コードを本機につないでから電源プラグを壁のコンセントに差してください。

電源プラグは定期的にお手入れを

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを取ってください。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れすると、感電の原因となることがあります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。万一電源コードが傷んだ場合は、お買い上げ店に交換をご依頼ください。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因になることがあります。

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードに傷が付き、火災や感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

⚠ 警告（使用）

本機にぶらさがらない

本機が壁からはずれたり、倒れたりして、本機の下敷きになり、大けがの原因となることがあります。

煙やにおい、音などの異常が発生したら、本機の電源を切り、電源プラグを抜く

異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。修理をお買い上げ店に依頼してください。お客様自身による修理は絶対におやめください。

内部に水や異物を入れない
本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

内部に水や異物が入ると火災の原因となります。万一、水が異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、修理をお買い上げ店に依頼してください。

分解や改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検や修理はお買い上げ店にご依頼ください。

⚠ 警告（乾電池）

電池を火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱、充電しない

電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池はプラスとマイナスの向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

間違えると電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を使い切ったときや、長時間使わないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない。新しい電池と古い電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 注意

お手入れのときや、旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグを抜く

お手入れのときや、本機を長時間使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグを抜いてください。本機は電源スイッチを切っただけでは、完全に電源からは切り離されておらず、常に微弱な電流が流れています。完全に電源から切り離すためには電源プラグをコンセントから抜く必要があります。コンセントは製品の設置場所に一番近く、抜き差しがしやすい場所を選んでください。

電源コードを熱器具に近づけない

電源コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。

人が通行するような場所に置かないコード類は正しく配置する

電源コードや信号ケーブルは、足に引っかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかけたりするような恐れのある場所を避け、充分注意して接続･配置してください。

風通しの悪いところに入れない・密閉した箱に入れない・じゅうたんや布団の上に置かない・布などをかけない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

たこ足配線をしない

火災・感電の原因となることがあります。

重いものを置いたり、上に乗ったりしない

倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。特にお子様やペットにはご注意ください。

電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

液晶画面に物をぶつけない

ガラスが割れ、飛び散ったガラスにより、けがの原因となります。

内部の掃除をお買い上げ店に依頼する

内部にほこりがたまると火災・故障の原因となることがあります。３年に１度は内部の掃除をお買い上げ店にご依頼ください。

⚠ 音量について

周囲の人の迷惑とならないよう適度の音量でお楽しみください。特に、夜間での音量は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを使用したりして、隣近所への配慮を充分にし、生活環境を守りましょう。ヘッドホンを使用されるときは、耳を必要以上に刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳を強く刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと、災害時等に避難が遅れてしまうなどの危険があります。呼びかけられたら返事ができるくらいの音量でお聞きください。

アンテナの工事は電気店に依頼する

アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、必ず電気店ご依頼ください。

⚠ 注意（乾電池）

指定された種類の電池を使用する

間違えると電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池は幼児の手の届くところに置かない

電池は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師と相談してください。

電池の液がもれたときは素手でさわらない

・電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
・皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に霜害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。

⚠ 廃棄するときは

廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

⚠ 注意（廃棄）

一般の廃棄物と一緒にしない

一般の廃棄物と一緒にしないでください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。

家電リサイクル法に従って廃棄する

家電リサイクル法の規定により、お客様がご使用済みのテレビを廃棄される場合は、収集・運搬と再商品化等料金をお支払いいただき、対象品を販売店や市町村等の自治体に適正に引き渡すことが求められています。詳細に関するお問い合わせは、家電製品協会までお願いいたします。
電話：(03) 3578 − 1311（代表）
ホームページ（URL）：
http://www.rkc.aeha.or.jp/text/p_procedure_s.html

使用上のご注意・お手入れについて

液晶画面について

- 液晶画面を太陽にむけたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。屋外や窓際には置かないでください。
- 液晶画面を強く押したり、ひっかいたり、上に物を置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒いところでご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元にもどります。
- 使用中に画面やキャビネットがあたたかくなることがありますが、故障ではありません。

輝点・滅点について

- 画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）が表れたりしますが、故障ではありません。液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99% 以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

メモリーに保存されるデータに関するご注意

- 本機のメモリーには、各種の機能設定データや放送局からのメール、番組購入履歴などが記録されます。
- 本機のメモリーには、放送事業者の要求によりお客様が入力した個人情報や、データ放送のポイントなどが記録される場合があります。
- 本機を廃棄、譲渡などする場合には、上記のメモリーに記録されているデータを消去することを強くおすすめします。
- 本機の不具合・修理など、何らかの原因で、本機のメモリーに保存されたデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復は致しません。予めご了承ください。

スクリーン画面のお手入れについて

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面に触れないようにしてください。また画面の汚れをふきとるときは、乾いた柔らかい布でふきとってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その販売会社にご確認下さい。
- 布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

外装のお手入れについて

- 乾いた柔らかい布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤をかけると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。
- 布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

アンテナについて

- 妨害電波の影響を避けるため、交通のひんぱんな自動車道路や電車の架線、送配電線、ネオンサインなどから離れた場所に立ててください。
- アンテナ線を不必要に長くしたり、束ねたりすると、映像が不安定になる原因となりますのでご注意ください。
- アンテナは風雨にさらされるため、定期的に点検、交換することを心がけてください。美しい映像でご覧になれます。特にばい煙の多いところや潮風にさらされるところでは、アンテナが傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、お買い上げ店にご相談ください。

電磁波妨害に注意してください

●本機の近くで携帯電話などの電子機器を使うと、電磁波妨害などにより機器相互間での干渉が起こり、映像が乱れたり雑音が発生したりすることがあります。

長時間ご使用にならないとき

●長時間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

国外では使用できません

●この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

B-CAS カードは必要なときだけ抜き差ししてください

●必要以外に抜き差しすると、故障の原因となることがあります。
●B-CAS カードの中には IC が内蔵されています。折り曲げたり、大きな衝撃を加えたり、端子部に触れたりしないようにご注意ください。
●本機に差し込むときは「逆差し込み」や「裏差し込み」にならないように挿入してください。

結露について

●本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずにお待ちください。そのままご使用になると故障の原因となります。

取り扱い上のご注意

●液晶画面を強く押したり、ボールペンのような先の尖ったもので押さないでください。また、落としたり強い衝撃を与えないようにしてください。特に液晶画面のパネルが割れることがあります。
●振動の激しいところや不安定なところに置かないでください。また、絶対に落としたりしないでください。故障の原因となります。

使用環境について

●本機を冷えきった状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、動作部に露が生じ（結露）、本機の性能を十分に発揮できなくなるばかりでなく、故障の原因となることがあります。このような場合は、よく乾燥するまで放置するか、徐々に室温を上げてからご使用ください。
●周辺温度は 0 ～ 35℃の範囲内でご使用ください。正しい使用温度を守らないと、故障の原因となります。

急激な温度差がある部屋（場所）でのご使用は避けてください

●急激な温度差がある部屋（場所）でのご使用は、画面の表示品位が低下する場合があります。

リモコンの取り扱いについて

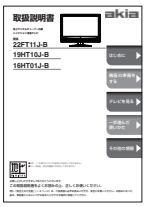
●落としたり、踏みつけたり、液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
●直射日光が当たるところ、暖房器具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

映像や音声の遅れについて

●テレビ放送、外部入力のソースによっては、映像や音声に若干の遅れが生じる場合があります。映像、音声でリズムを取るテレビゲームやカラオケ機器によっては、違和感を感じる場合がありますが、故障ではありません。予めご了承ください

付属品

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

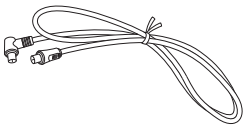


1. 取扱説明書 x1 部

2. 保証書 x1 部

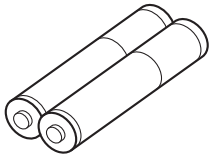
22FT11J-B/
19HT10J-B

16HT01J-B



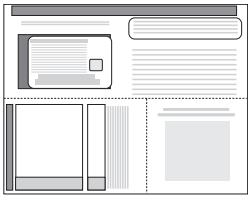
3. アンテナケーブル x1 本

4. 赤外線リモコン x1 台

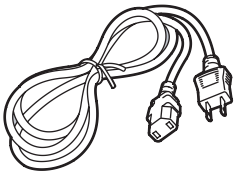


5. リモコン用単四乾電池 x2 本

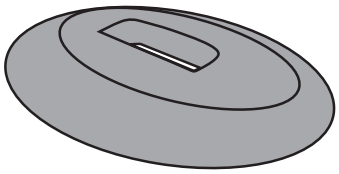
6. B-CAS カード（ブルーカード）x1 枚



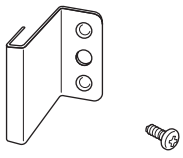
7. B-CAS 用ユーザー登録はがき台紙 x1 枚



8. AC（電源）ケーブル（1.8 m）x1 本



9. 台座 x1 台（22FT11J-B と 19HT10J-B のみ）

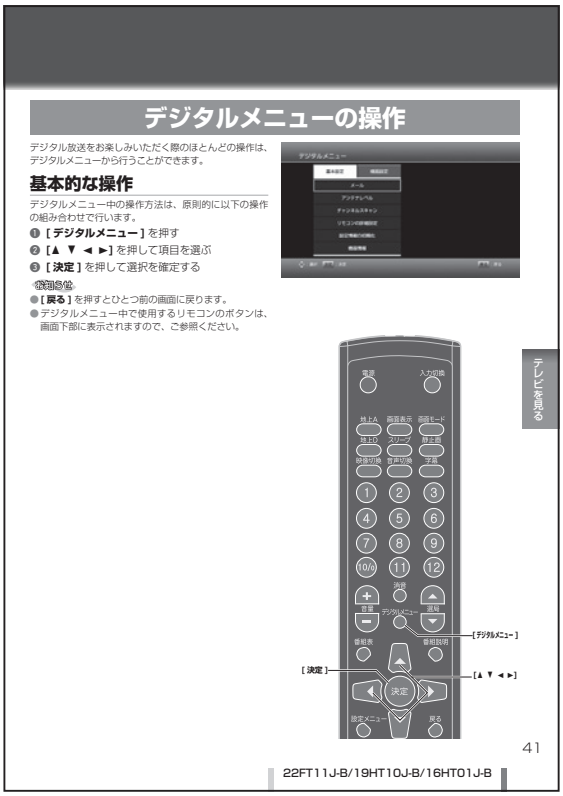


10. B-CAS カード固定用金具 x1 セット

本書の読みかた

説明のしかたについて

- 本書は、22FT11J-B/19HT10J-B/16HT01J-B の 3 つのモデルの取扱いを説明しています。特に断り書きのない場合は、3 つのモデルを代表して 22FT11J-B についての説明のみとさせて頂きますので、あらかじめご了承頂けますようお願いいたします。
- 本書は、リモコンでの操作を前提に説明をしております。特に必要がある場合を除いて、リモコンのみでの操作説明とさせていただいています。
- 文中の太字は画面に表示される選択項目、括弧付きの太字はボタン名を表しています。
  例）
  選択項目：**受信設定 / リモコン設定 / 受信レベル**
  ボタン名：**[電源]/[映像切替]/[決定]**
- 本書の操作説明のページは、各ページ左側に説明文、操作に関連する表示やリモコンのイラストを記載しています。イラストは、そのページで使用するボタンがわかるように記載しています。
- 説明文中の用語には、専門性が高くわかりにくい言葉も含まれます。わかりにくい言葉については、「用語の解説」（☞ 64 ページ）をご覧ください。


デジタルメニューの操作

デジタル放送をお楽しみいただく際のほとんどの操作は、デジタルメニューから行うことができます。

基本的な操作

デジタルメニュー中の操作方法は、原則的に以下の操作の組み合わせで行います。

❶ [デジタルメニュー] を押す
❷ [▲ ▼ ◄ ►] を押して項目を選ぶ
❸ [決定] を押して選択を確定する

戻るとき

● [戻る] を押すとひとつ前の画面に戻ります。
● デジタルメニュー中で使用するリモコンのボタンは、画面下部に表示されますので、ご参照ください。

[デジタルメニュー]
[決定]
[▲ ▼ ◄ ►]

41

22FT11J-B/19HT10J-B/16HT01J-B

アイコンについて

ご注意

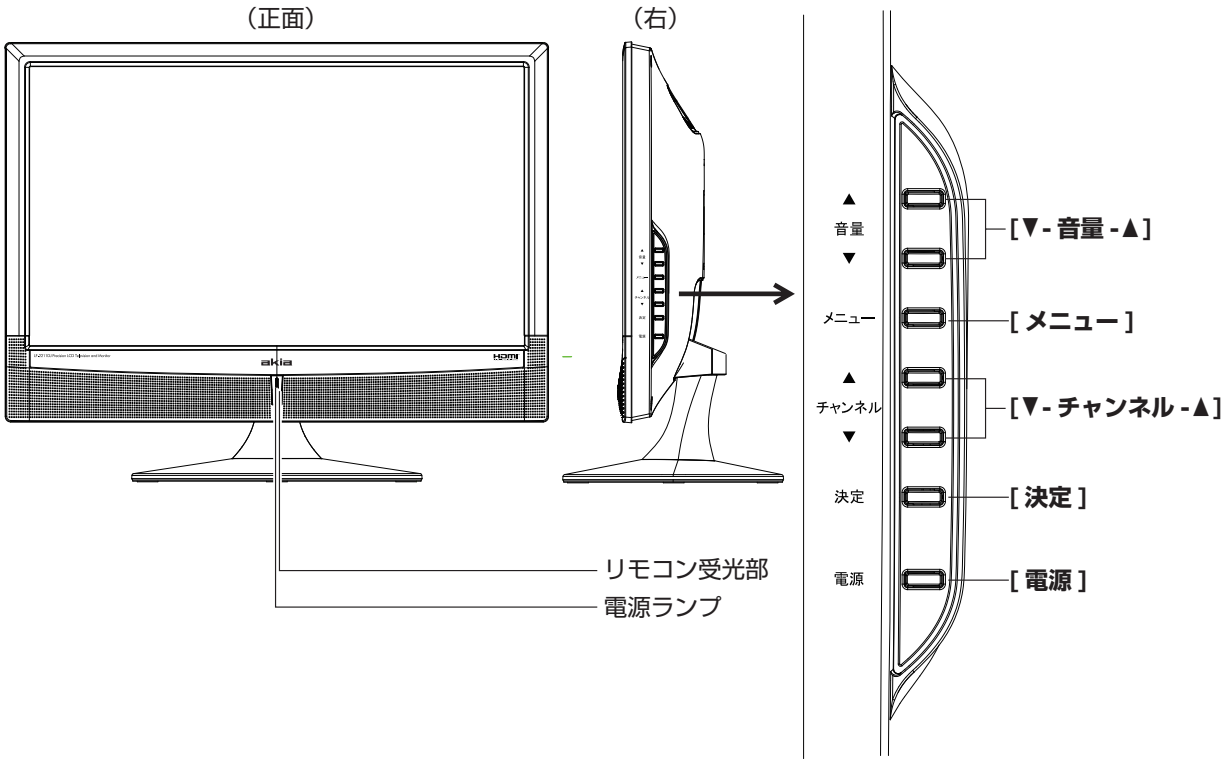
説明文中で、とくにご注意頂きたい点を説明する際に使用しています。重要な内容を含みますので、必ずお読みください。

お知らせ

本機を快適にお使いいただく上で知っておいていただきたい内容を説明する際に使用しています。できるだけお読みください。

各部の名前

本体操作部 (22FT11J-B)

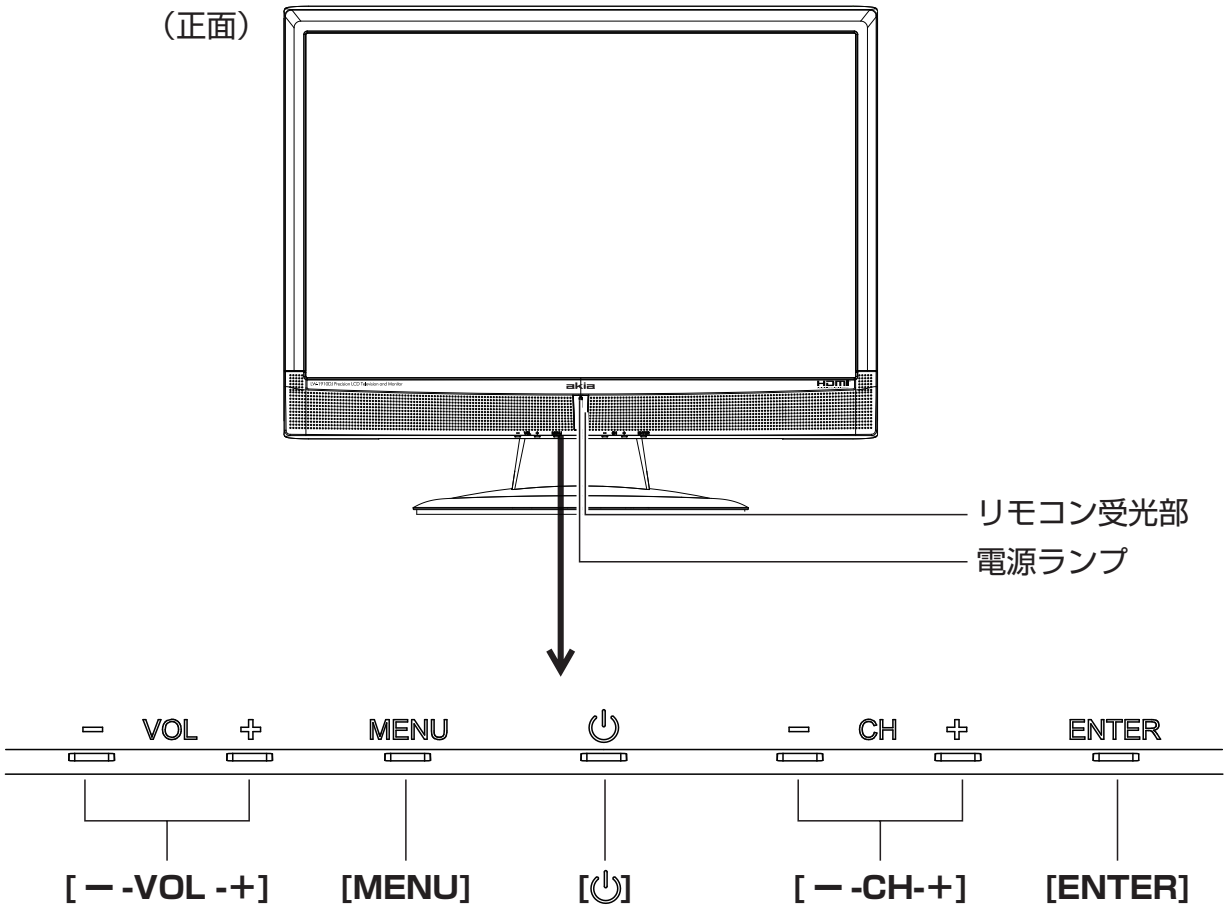


[▼- 音量 -▲]
スピーカー（またはヘッドホン）からの音量調整を行います。
また設定メニューからの調整にも使います。
[メニュー]
設定メニューを表示します。
[▼- チャンネル -▲]
チャンネルの順送りによる選局を行います。
入力信号選択の画面では入力の順送りによる選択を行います。
また設定メニューから項目を選択するのにも使います。
[決定]
入力信号の選択を行います。**[決定]** または **[▼- チャンネル -▲]** を押してご希望の入力が選択されたら、そのまま 3 秒ほどお待ちください。
[電源]
待機状態（電源ランプ : オレンジ）と電源オン（電源ランプ : 青）の切り換えを行います。

設定メニュー表示中の操作

[メニュー]
ひとつ前のメニューに戻ります。
[チャンネル -▲]
ひとつ上の選択肢に移動します。
[▼- チャンネル]
ひとつ下の選択肢に移動します。
[音量 -▲]
メニューの種別（画像、音声、等）の選択をします。各メニュー項目表示中は設定値の増加を行います。
[▼- 音量]
メニューの種別（画像、音声、等）の選択をします。各メニュー項目表示中は設定値の減少を行います。

本体操作部 (19HT10J-B)



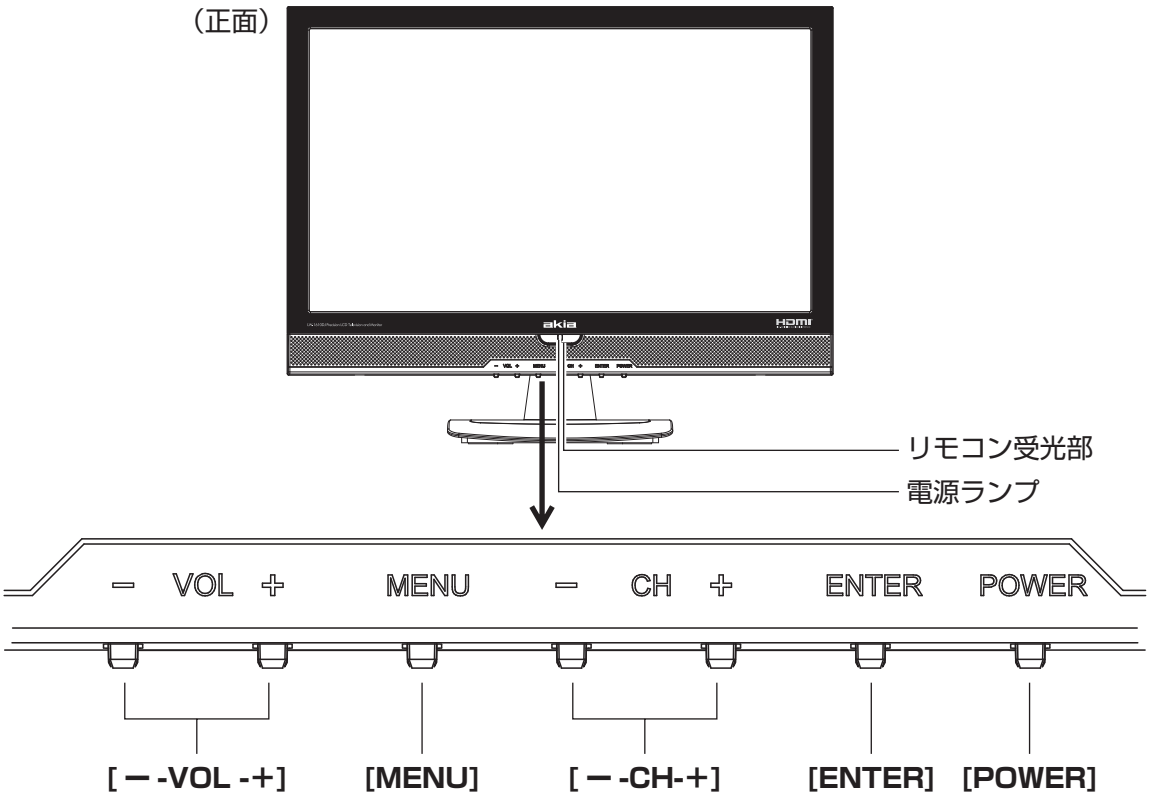
[－-VOL-＋]
スピーカー（またはヘッドホン）からの音量調整を行います。
また設定メニューからの調整にも使います。
[MENU]
設定メニューを表示します。
[⏻]
待機状態(電源ランプ : オレンジ)と電源オン(電源ランプ : 青）の切り換えを行います。
[－-CH-＋]
チャンネルの順送りによる選局を行います。
入力信号選択の画面では入力の順送りによる選択を行います。
また設定メニューから項目を選択するのにも使います。
[ENTER]
入力信号の選択を行います。**[ENTER]** または **[－-CH-＋]** を押してご希望の入力が選択されたら、そのまま 3 秒ほどお待ちください。

設定メニュー表示中の操作

[MENU]
ひとつ前のメニューに戻ります。
[CH-＋]
ひとつ上の選択肢に移動します。
[－-CH]
ひとつ下の選択肢に移動します。
[VOL-＋]
メニューの種別（画像、音声、等）の選択をします。各メニュー項目表示中は設定値の増加を行います。
[－-VOL]
メニューの種別（画像、音声、等）の選択をします。各メニュー項目表示中は設定値の減少を行います。

各部の名前（つづき）

本体操作部（16HT01J-B）

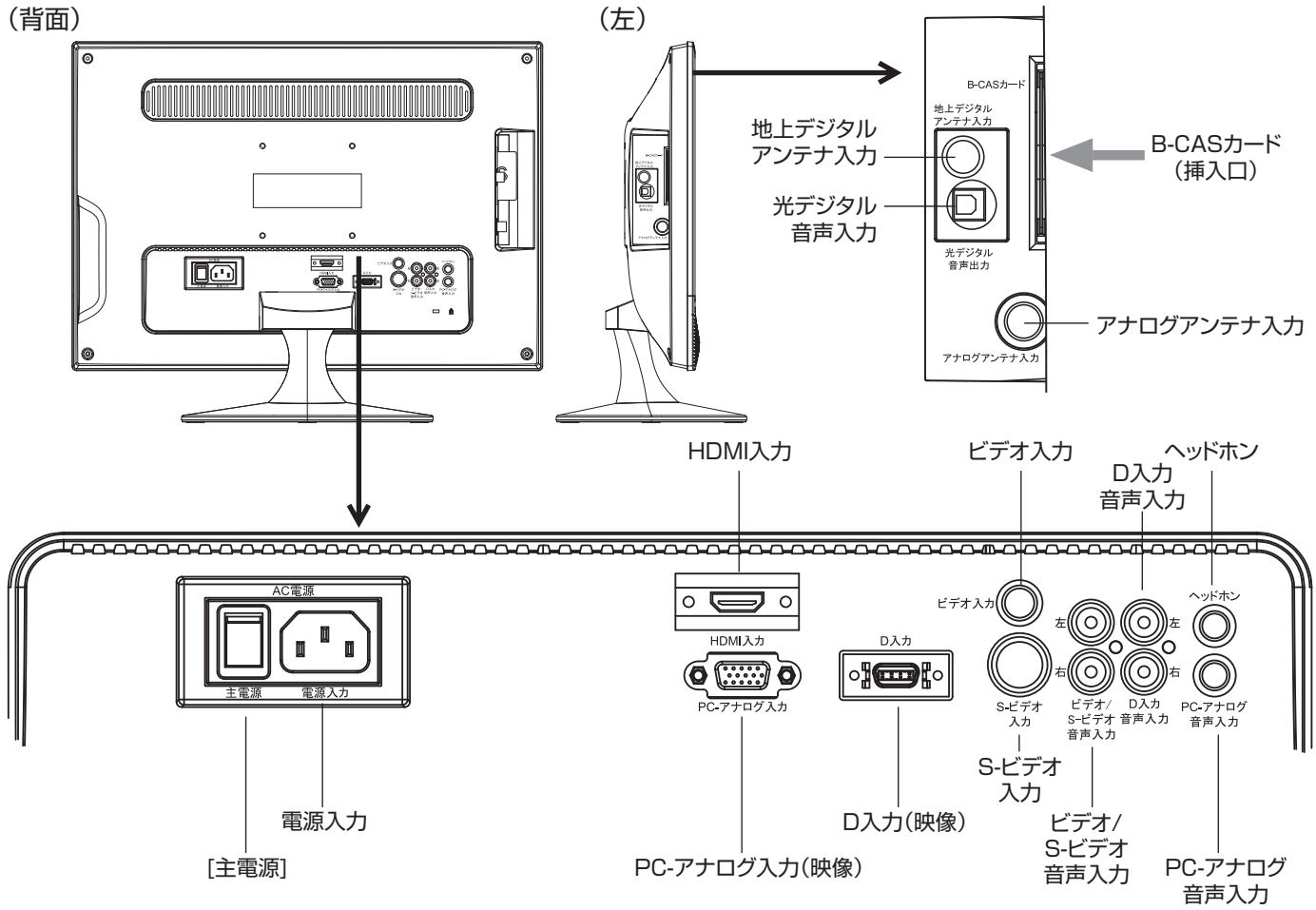


[ー-VOL-＋]
スピーカー（またはヘッドホン）からの音量調整を行います。
また設定メニューからの調整にも使います。
[MENU]
設定メニューを表示します。
[ー-CH-＋]
チャンネルの順送りによる選局を行います。
入力信号選択の画面では入力の順送りによる選択を行います。
また設定メニューから項目を選択するのにも使います。
[ENTER]
入力信号の選択を行います。**[ENTER]** または **[ー-CH-＋]** を押してご希望の入力が選択されたら、そのまま３秒ほどお待ちください。
[POWER]
待機状態（電源ランプ：オレンジ）と電源オン（電源ランプ：青）の切り換えを行います。

設定メニュー表示中の操作

[MENU]
ひとつ前のメニューに戻ります。
[CH-＋]
ひとつ上の選択肢に移動します。
[ー-CH]
ひとつ下の選択肢に移動します。
[VOL-＋]
メニューの種別（画像、音声、等）の選択をします。各メニュー項目表示中は設定値の増加を行います。
[ー-VOL]
メニューの種別（画像、音声、等）の選択をします。各メニュー項目表示中は設定値の減少を行います。

本体接続部 (22FT11J-B)



[主電源]
本機の電源をオン・オフします。

電源入力
付属の AC（電源）ケーブル（電源コード）を接続します。

HDMI 入力
市販の HDMI ケーブルを使用して対応機器を接続します。

PC- アナログ入力（映像）
市販の VGA ケーブルを使用してパソコンを接続します。

D 入力（映像）
市販の D ケーブルを使用して対応機器を接続します。

ビデオ入力
市販の映像ケーブルを使用して対応機器を接続します。

S- ビデオ入力
市販の S ビデオケーブルを使用して対応機器を接続します。

ビデオ /S ビデオ音声入力
市販の音声ケーブルを使用して対応機器を接続します。

D 入力音声入力
市販の音声ケーブルを使用して対応機器を接続します。

ヘッドホン
市販のヘッドホンを接続します。

PC- アナログ音声入力
市販の音声ケーブル（ミニステレオ）を使用してパソコンを接続します。

地上デジタルアンテナ入力
アンテナケーブルを使用して地上デジタル用アンテナを接続します。

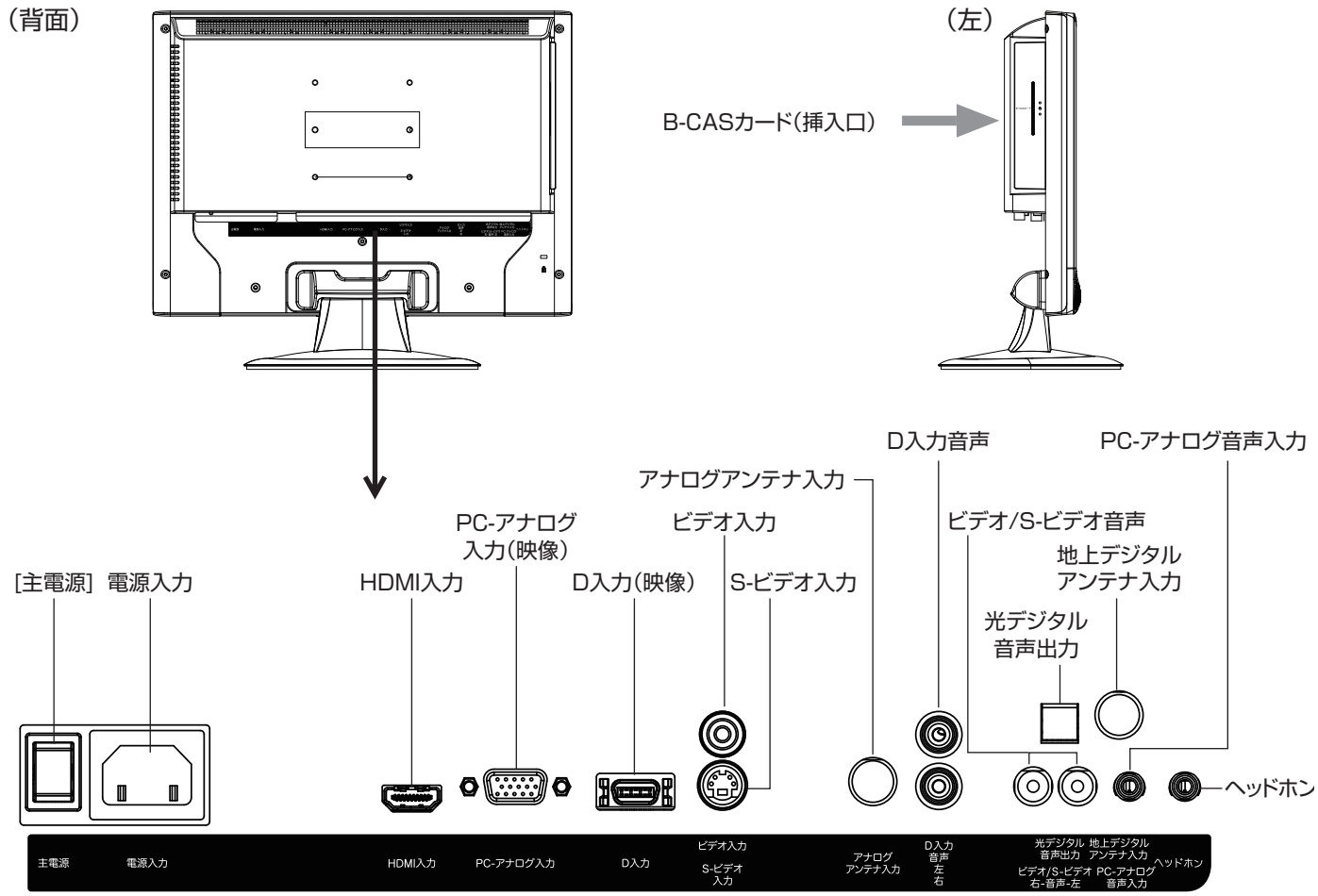
光デジタル音声出力
市販の光ケーブルを使用して対応機器を接続します。

アナログアンテナ入力
アンテナケーブルを使用してアナログアンテナを接続します。

B-CAS カード（挿入口）
B-CAS カードを挿入します。

各部の名前（つづき）

本体接続部（19HT10J-B）



[主電源]
本機の電源をオン・オフします。

電源入力
付属の AC（電源）ケーブル（電源コード）を接続します。

HDMI 入力
市販の HDMI ケーブルを使用して対応機器を接続します。

PC- アナログ入力（映像）
市販の VGA ケーブルを使用してパソコンを接続します。

D 入力（映像）
市販の D ケーブルを使用して対応機器を接続します。

ビデオ入力
市販の映像ケーブルを使用して対応機器を接続します。

S- ビデオ入力
市販の S ビデオケーブルを使用して対応機器を接続します。

アナログアンテナ入力
アンテナケーブルを使用してアナログアンテナを接続します。

D 入力音声
市販の音声ケーブルを使用して対応機器を接続します。

光デジタル音声出力
市販の光ケーブルを使用して対応機器を接続します。

ビデオ /S ビデオ音声
市販の音声ケーブルを使用して対応機器を接続します。

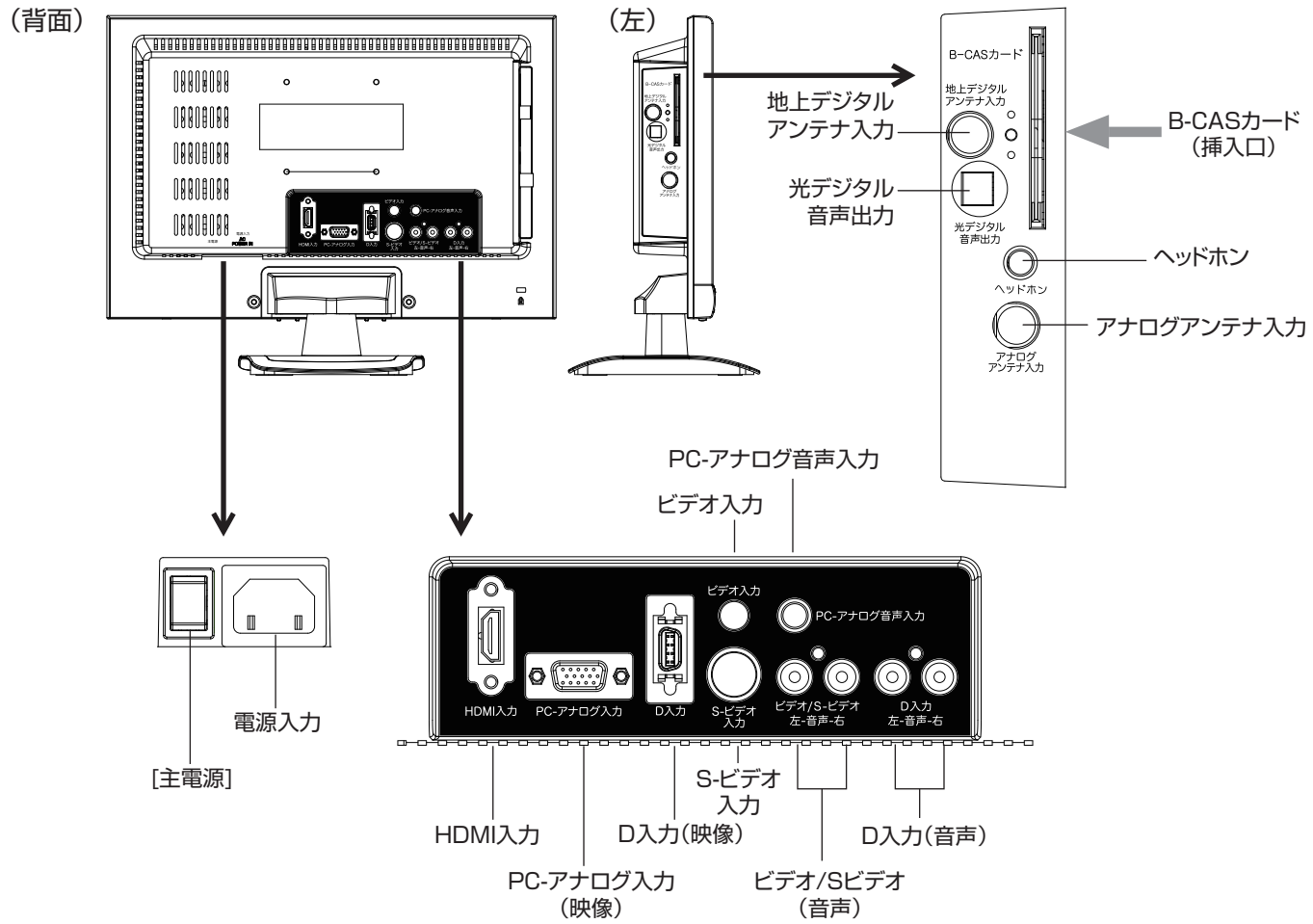
地上デジタルアンテナ入力
アンテナケーブルを使用して地上デジタル用アンテナを接続します。

PC- アナログ入力（音声）
市販の音声ケーブル（ミニステレオ）を使用してパソコンを接続します。

ヘッドホン
市販のヘッドホンを接続します。

B-CAS カード（挿入口）
B-CAS カードを挿入します。

本体接続部 (16HT01J-B)



[主電源]
本機の電源をオン・オフします。

電源入力
付属の AC（電源）ケーブル（電源コード）を接続します。

HDMI 入力
市販の HDMI ケーブルを使用して対応機器を接続します。

PC- アナログ入力（映像）
市販の VGA ケーブルを使用してパソコンを接続します。

D 入力（映像）
市販の D ケーブルを使用して対応機器を接続します。

ビデオ入力
市販の映像ケーブルを使用して対応機器を接続します。

S- ビデオ入力
市販の S ビデオケーブルを使用して対応機器を接続します。

PC- アナログ音声入力
市販の音声ケーブル（ミニステレオ）を使用してパソコンを接続します。

ビデオ /S ビデオ音声
市販の音声ケーブルを使用して対応機器を接続します。

D 入力音声
市販の音声ケーブルを使用して対応機器を接続します。

B-CAS カード（挿入口）
B-CAS カードを挿入します。

地上デジタルアンテナ入力
アンテナケーブルを使用して地上デジタル用アンテナを接続します。

光デジタル音声出力
市販の光ケーブルを使用して対応機器を接続します。

ヘッドホン
市販のヘッドホンを接続します。

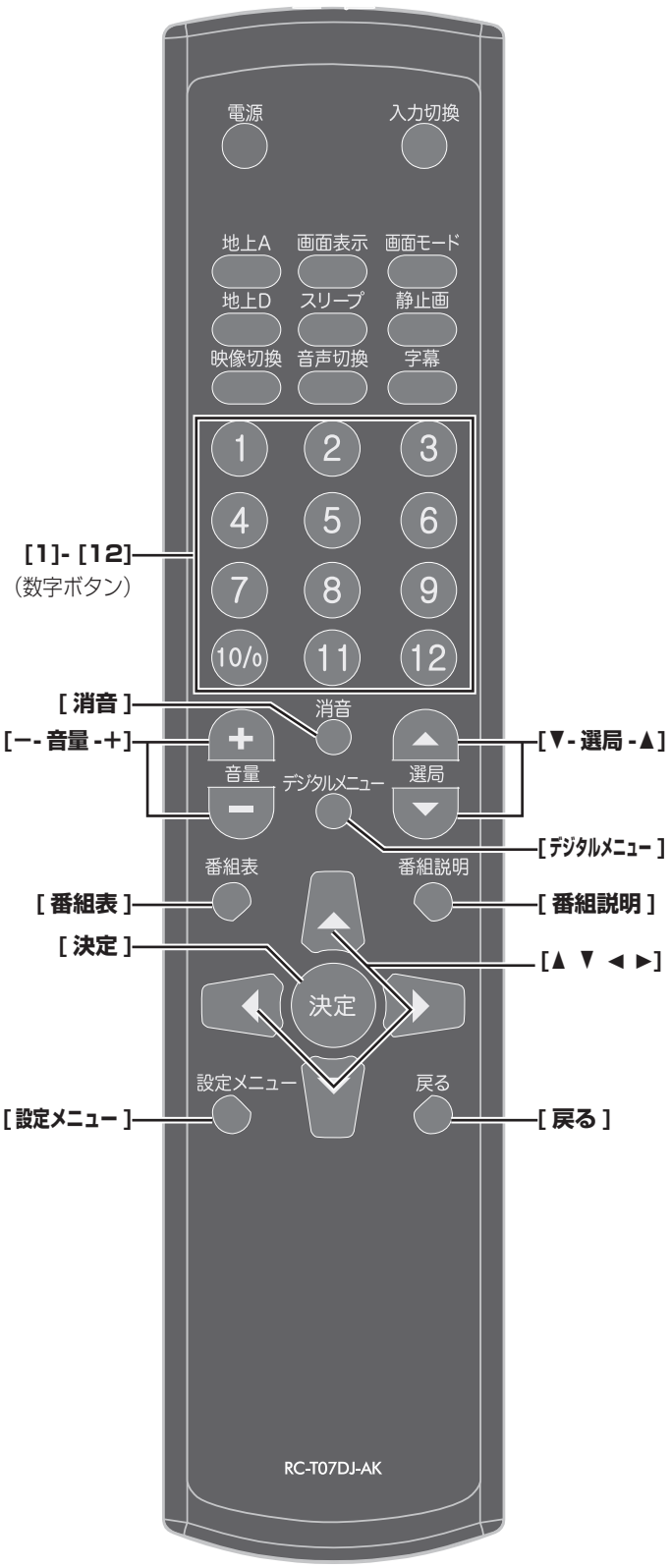
アナログアンテナ入力
アンテナケーブルを使用してアナログアンテナを接続します。

各部の名前（つづき）

リモコン

[電源]
電源待機 / オンを切り換えます。
[地上 A]
地上アナログ放送を受信します。
[地上 D]
地上デジタル放送を受信します。
[映像切換]
画質の選択を行います。
[入力切換]
入力信号の選択を行います。
[画面表示]
受信チャンネルなどの情報表示のしかたを切り換えます。
[画面モード]
画面モードを選択します。
[スリープ]
スリープタイマーを設定します。
[静止画]
画面をボタンを押した瞬間の表示で静止させます。もう一度押すともとに戻ります。（VGA モードを除く。）
[字幕]
デジタル放送で字幕があるときに本機に出力する字幕を切り換えます。
[音声切換]
アナログ放送視聴時は、ステレオ・モノラルまたは主 / 副音声を切り換えます。デジタル放送時視聴時は、複数の音声があるときにこれを切り換えます。

[1]-**[12]**（数字ボタン）
チャンネルの直接選局などの数字入力に使用します。
[消音]
消音します。
[ー - 音量 - ＋]
スピーカー（またはヘッドホン）からの音量調整を行います。
[番組表]
デジタル放送の番組表（EPG：電子番組表）を表示します。
[決定]
[▲、▼、◄、►] での選択を確定します。
[設定メニュー]
設定メニューを表示します。
[▼- 選局 -▲]
チャンネルの順送りによる選局を行います。
[デジタルメニュー]
デジタルメニューを表示します。
[番組説明]
デジタル放送で現在視聴中の番組の詳細情報を表示します。
[▲、▼、◄、►]
メニュー操作中などに、項目を選びます。
[戻る]
前の表示に戻ります。



デジタル放送について

本機では地上デジタル放送と地上アナログ放送を視聴することができます。デジタル放送では、以下のようなアナログ放送には無い機能を楽しむことができます。

デジタル放送の特徴

高画質・高品質

デジタル放送では、従来のアナログ放送でみられるようなゴースト（映像の二重化）やスノーノイズ（雪が舞っているようなちらつき）といった映像の乱れが起こりません。なかでもデジタルハイビジョン放送では、アナログの通常放送と比較して走査線数（ブラウン管方式のテレビの映像の細密度を示す指数）で約２倍、解像度にして約８倍の高精細映像を楽しむことができます。音声についても、音質が劣化しにくい方式で伝送しているため、高音質な音声を再現できます。

電子番組表（EPG）

デジタル放送では、送られてくるデータの中に番組の情報が含まれています。これを利用して画面上に番組表を表示することができます。
したがって、最初にご使用になる時、設定初期化 (☞ 43 ページ) 後、あるいは電源を長期間（一週間以上）外していた場合などには、表示されません。なお、電源を接続してあれば、深夜に自動的に受信して最新の番組表に更新します。

マルチ（複数）チャンネル

デジタル放送では、一つのチャンネルあたり、６MHz の帯域が与えられています。この帯域はさらに４３０kHz ずつ、１３のセグメントとよばれる帯域に分割されています。この１３のセグメントのうち、デジタルハイビジョン放送（HDTV) では、１２セグメントを使って放送されます。標準画質放送（SDTV) の場合は一つの番組では４セグメントしか使わないので、一度に３つの番組を放送することができます。どちらの場合も 13 番目のセグメントは使わないわけですが、この部分を利用して放送されるのが携帯電話等で受信できつワン・セグメント放送、つまり「ワンセグ」放送です。
なお、本機は受信中の放送が HD か SD かを自動判別して映像を表示します。

ラジオ放送

音楽 CD 並みに高音質な音声のみの放送を楽しむことができます。

臨時編成サービス

スポーツ中継が延長になった場合などに、別チャンネルで予定されていた番組を放送することができます。（イベントリレー）

緊急警告放送

警戒警報や津波警報が発令されたときなど、別チャンネルで緊急警告放送を行っていることが表示されます。

字幕放送

デジタル放送の番組のせりふなどの音声を、文字にして画面に表示させることが できます。

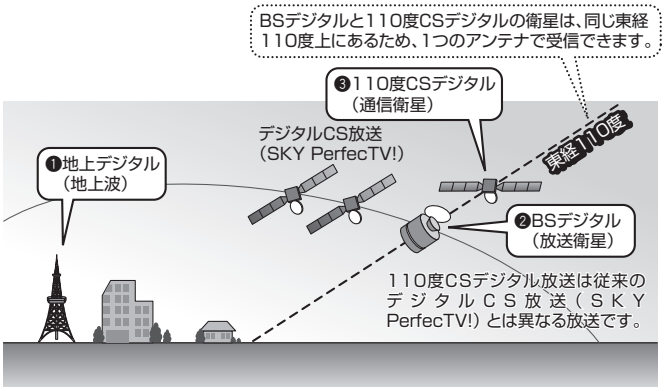
文字スーパー

地域情報や速報など、番組に連動しない文字情報（文字スーパー）を画面に表示 することができます。

※ 上記のサービスや機能は、全てのデジタル放送の種類や放送局、番組で行っているというものではありません。

本機で視聴可能なデジタル放送の種類

本機で視聴できるデジタル放送は、地上デジタルのみです。
衛生デジタル放送（BS デジタル、110 度 CS デジタル、SKY PerfecTV! など）には対応しておりません。



デジタル放送を視聴するための準備

アンテナ等について

デジタル放送を視聴するためには、受信用アンテナの用意をする必要があります。準備の仕方は、本機をご使用になる環境によってことなります。詳しくはお買い上げ店等でご確認ください。

ケーブルテレビをご利用の場合

本機はケーブルテレビのパススルー方式（同一周波数または UHF 帯域周波数変換）および帯域外周波数パススルーに対応しております。詳しくはご契約のケーブルテレビ事業者にお問い合わせください。

お知らせ

- 地上デジタル放送の受信には、UHF アンテナを使用します。現在お使いのアンテナが UHF 対応のものであれば、基本的にそのままご使用いただけますが、場合によっては調整やブースターの追加が必要になることもあります。詳しくは販売店等にお問い合わせください。
- 本機は地上デジタル専用のアンテナ入力端子を備えています。UHF アンテナを、地上デジタル専用に使用することもできます。

機器の準備をする

この章では、本機や本機に接続する機器の設置および設定方法についてご説明いたします。

●設置のしかた P26

●リモコンについて P28

●アンテナの接続 P29

●他の機器との接続 P30

●電源コードの接続 P34

お知らせ

●接続については 22FT11J-B のイラストで説明しています。他のモデルとは端子の位置が異なりますが、接続方法は同じです。

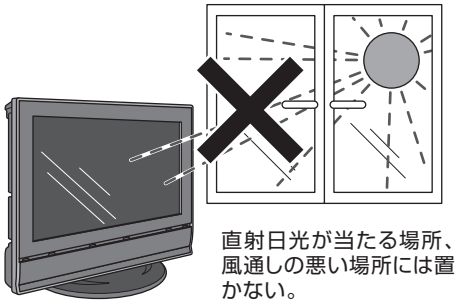
設置のしかた

本機は重量のある精密機器です。運搬や設置を行う際は、落下や転倒に十分注意してください。また、動作が安定する場所に設置するようにしてください。設置はできるだけ専門業者に依頼してください。

設置の手順

1　置く場所を決める

- 直射日光が当たらず、気温が安定している場所を選んでください。
- グラつきなどがなく、きちんと固定できる場所を選んでください。

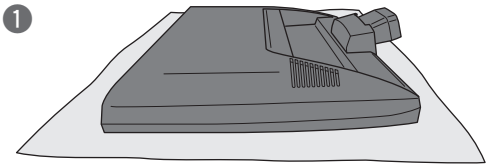


直射日光が当たる場所、風通しの悪い場所には置かない。

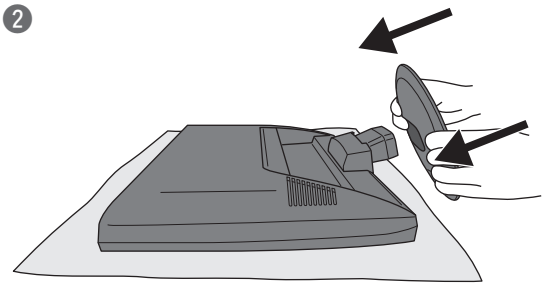
2　台座をつける（22FT11J-B/19HT10J-B のみ）

例）19HT10J-B

❶ 画面を傷つけないように毛布や保護シートを敷き、画面を下にして本機を置く



❷ 台座を、内側の矢印が下になるようにして持ち、本機のツメと台座の穴を合わせて差し込み、カチッと音がするまで押し付ける



ご注意

- 液晶パネル部に手を触れないようにご注意ください。

3　配置する

ご注意

- 壁掛けの設置をする場合以外は、スタンドを外さないでください。
- 本機が転倒するとお客様の怪我や本機の故障につながります。市販の転倒防止器具で転倒防止策を行ってください。

通風孔について

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。風通しの悪い場所（棚や押入れの中など）や、絨毯や布団の上に置かないでください。また布をかけたりしないでください。定期的に掃除機で通風孔にたまったごみを除去してください。

B-CAS カードを入れる

B-CAS カードについて

- 地上デジタル放送（BS デジタル放送 /110 度 CS デジタル放送）が視聴制限に使用しているのが B-CAS カードです。
- デジタル放送をお楽しみいただくためには、B-CAS カードを本機に挿入していただくことが必要です。同梱の B-CAS 用ユーザー登録はがきまたは Web によるユーザー登録をお勧めします。（登録は任意で無料です。）
- 付属の B-CAS カードは地上デジタル専用（ブルーカード）です。

お知らせ

- B-CAS カードに関するお問い合わせは、カードの裏面記載の（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ　カスタマーセンターまでお願いいたします。

B-CAS カードの入れかた

1. 本機の電源を切る
2. 同梱の「ビーキャス（B-CAS）カード使用許諾契約約款」の内容を読み、了解していただいた上で、台紙から B-CAS カードをはがす
3. B-CAS カードを挿入する
4. 同梱の B-CAS 用ユーザー登録はがきに記入し、投函する

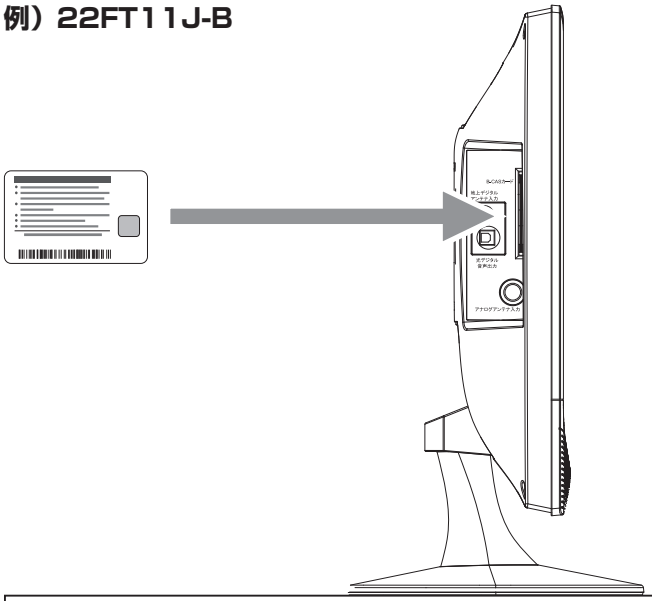
お知らせ

- B-CAS カードには視聴情報などが記憶されますので、本機に入れたままご使用ください。
- B-CAS カードの盗難等にご注意ください。他人がお客様のカードを使用して有料番組を視聴した場合も、視聴料はお客様の口座に請求されます。
- B-CAS カードは（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズから貸与されているものです。本機を廃棄なさる場合は同社にご返却ください。また本機を他の人に譲渡なさる場合は、新しい所有者の名義に変更してください。

取扱い上のご注意

- B-CAS カードを折り曲げたり、傷つけたりしないでください。破損等による B-CAS カードの再発行は有料です。
- B-CAS カードの金属部（集積回路）には触れないでください。
- B-CAS カードの抜き差しは、必要な場合を除いて行わないようにしてください。抜く場合は、ロックスイッチを奥に押しながらカードを抜いてください。

例）22FT11J-B

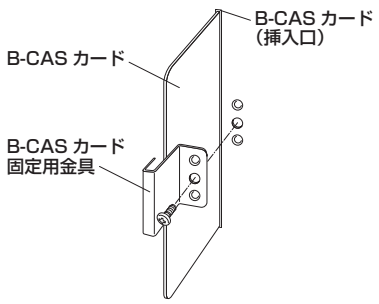


付属の B-CAS カード固定具について

付属の B-CAS カード固定具は、店頭展示や公共の場所でご利用いただく場合の盗難防止用具です。ご家庭等でご利用いただく場合は必要ありません。

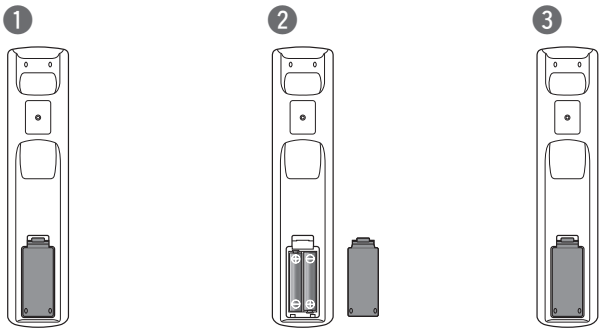
取り付け方法

B-CAS カード固定具をねじ止めしてください。



リモコンについて

電池の入れ方



❶ バッテリカバーを開ける

❷ ＋極、一極の向きを確認し、正しい方向で単４電池２本を入れる

❸ カバーがカチッというまで押して閉める

ご注意

乾電池は誤った使い方をすると液漏れや破裂することがあります。特に以下の点に注意してお使いください。

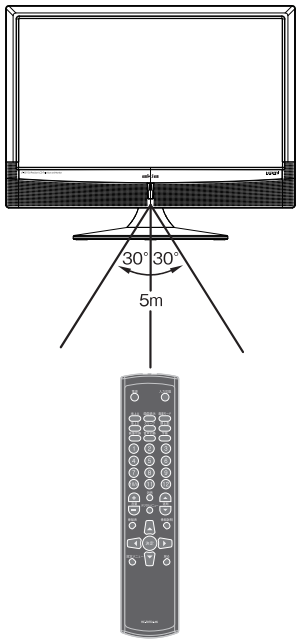
- 違う種類の乾電池を混ぜて使用しない。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しない。
- 使えなくなった乾電池はすぐに取り出す。
- 液漏れした乾電池は使用しない。
  漏れた液に触れると肌が荒れることがあります。万一、液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

お知らせ

- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。
- リモコンを長く使わないときは電池を取り出しておいてください。
- 乾電池を廃棄するときはお住まいの自治体で定める廃棄方法に従ってください。

操作のしかた

本体のリモコン受光部に向けて操作してください。



ご注意

- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり温度の高い所に置いたりしないでください。
- リモコンは直射日光の当たる場所に取り付けたり、放置したりしないでください。熱により変形することがあります
- 本体のリモコン受光部に直射日光や強い照明が当たっているとリモコンが動作しにくくなることがあります。その場合は照明または本体の向きを変えるか、リモコン受光部にリモコンを近づけて操作してください。
- リモコンを操作してもテレビが動作しない場合は、新しい乾電池と交換してください。

アンテナの接続

ご注意

●アンテナの取り付け・配線は、必ず専門業者にご依頼ください。

アンテナを接続する

単独での接続

●地上デジタル放送の受信には、UHF アンテナを使用します。ご使用中の UHF アナログ放送と地上デジタル放送が同じ送信所から送られている場合は基本的に現在ご使用中のアンテナをそのままご使用いただけますが、場合によっては角度等の調整やブースターの追加が必要になることもあります。詳しくは販売店等にお問い合わせください。

●現在 UHF 放送を受信していない場合、または UHF アナログ放送と地上デジタル放送が異なった送信所から送られている場合は、新たに UHF アンテナをご購入ください。地上デジタル放送専用のアンテナ設置をお勧めします。

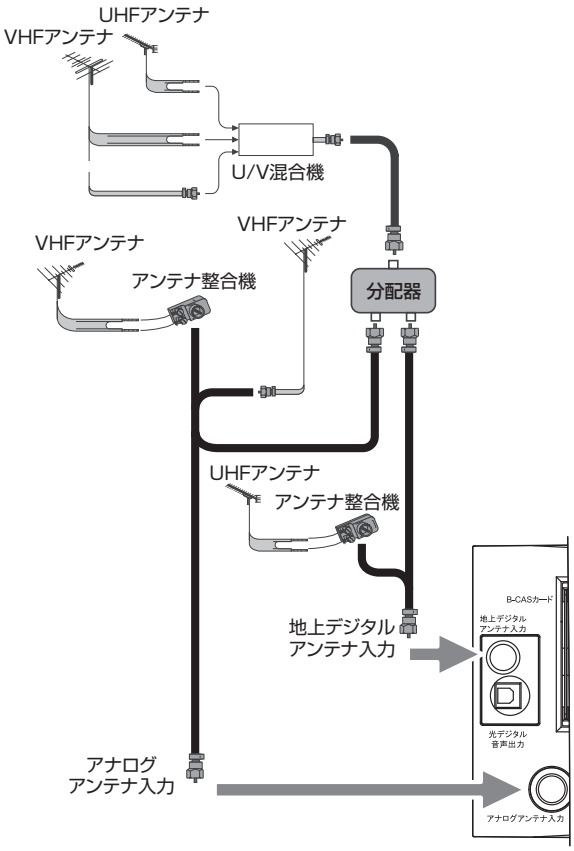
●本機をご購入いただく前にアナログ専用のテレビを使用されていた場合は、そのテレビに接続していたアナログアンテナのケーブルを本機のアナログアンテナ入力端子に接続してください。VHF と UHF を別々の端子に接続していた場合は、市販の U/V 混合器をご使用ください。

●地上デジタル用のアンテナを地上デジタルアンテナ入力端子に接続するときは、同梱のアンテナケーブルを使用してください。（16HT01J-B のみ）L 字型の端子を本機の端子に、ストレートタイプの端子をアンテナに接続してください。

●ご自宅のアンテナ線がフィーダー線の場合は、円筒形の同軸ケーブルに変換するため、市販のアンテナ整合器をお使いください。

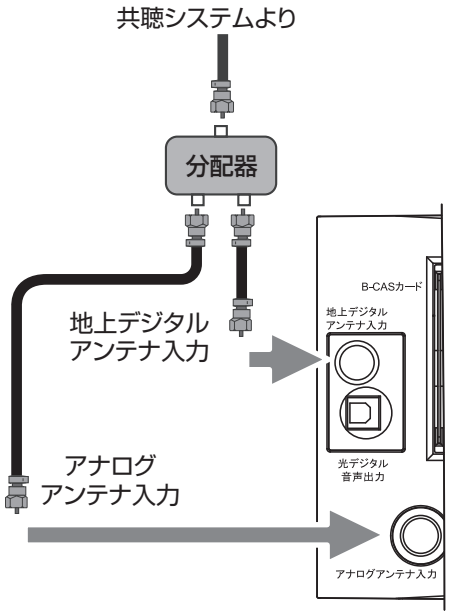
●ケーブルテレビをご利用の場合、ケーブル会社からの再送信の方式によって接続のしかたが異なります。詳しくは、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

●「アンテナレベル」（☞ 42 ページ）を使用して受信レベルが最大になるようにアンテナの方向を調整してください。お住まいの地域・地形によって受信レベルは異なりますが、目安としては５０以上できれいに受信できます。受信レベルが上がらない場合は、市販のブースターをつけることをお勧めします。



マンションなどの共聴システムでの接続

まずはお住まいのマンションなどが、地上デジタルにどのように対応しているかを、マンション管理会社などにご確認ください。



他の機器との接続

本機を DVD プレーヤー、HDD レコーダー、ビデオカメラ、ゲーム機、パソコンなどと接続してモニターとして使用することができます。

ご注意

- 接続の前に、本機や接続する機器の電源をお切りください。
- 接続ケーブルの抜き差しは、ケーブルでなくプラグを持ってしっかりと行ってください。
- ノイズが出る場合は、機器間の距離が十分にとれるように配置してください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

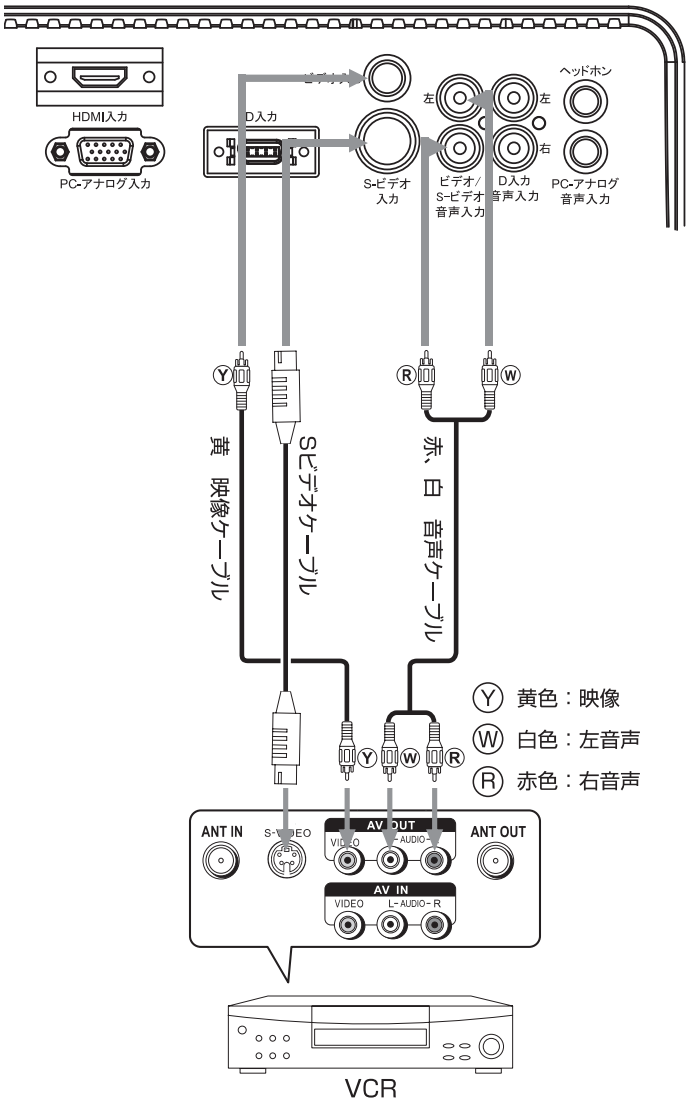
DVD プレーヤーなどを接続する

映像入力端子に接続する

黄、赤、白の AV ケーブルで VCR などの AV 出力端子と、本機の AV 入力端子を接続します。プラグと端子の色をそれぞれ合わせるようにしてください。

S 映像入力端子に接続する

S ビデオケーブルで AV 入力端子に接続することもできます。S ビデオの方が AV 入力端子での接続より良い画質が得られます。音声については、前述同様 AV ケーブル（赤、白）で接続します。



D 端子に接続する

D 端子出力のある機器と D ケーブルで接続します。音声は AV ケーブルで D 端子用の音声入力端子に接続します。

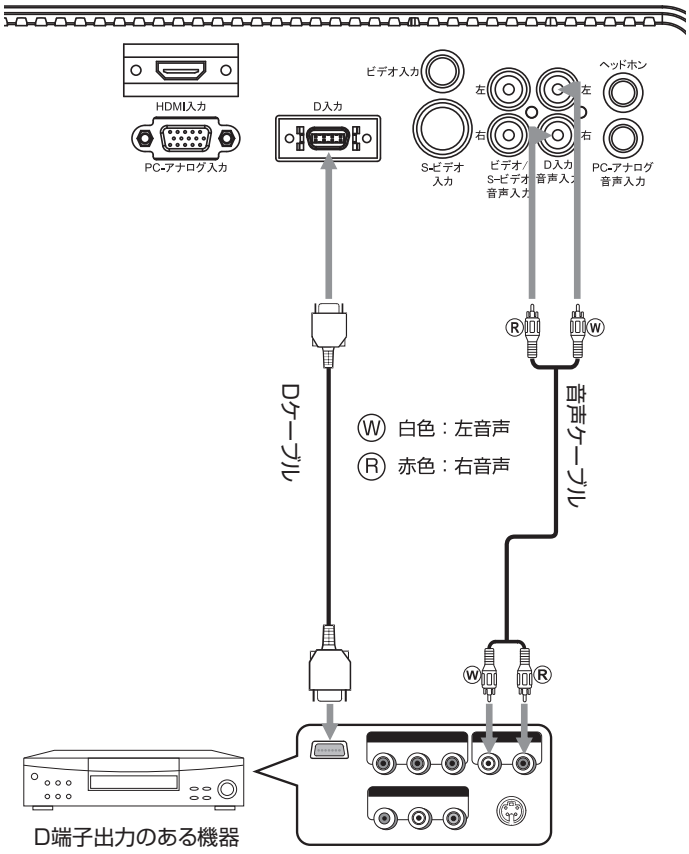
お知らせ

- 本機の D 端子は D5 規格です。これは D 端子規格の中で D1、D2、D3、D4 および D5 入力信号を自動的に判別して表示する機能を持った端子です。この場合、音声出力は市販のミニステレオ・ピンジャック変換ケーブルを使用して、本機の D 端子に接続してください。

D 端子の種類と対応信号フォーマット

	525i (480i)	525p (480p)	1125i (1080i)	750p (720p)	1125p (1080p)
D1	○	×	×	×	×
D2	○	○	×	×	×
D3	○	○	○	×	×
D4	○	○	○	○	×
D5	○	○	○	○	○

- カッコ内の数字は有効走査線数と呼ばれるものです。お使いの機器によってはこちらの数字を表示している場合があります。
- 接続機器によっては、出力を D 端子に設定しなければ信号を出力しないものがあります。映像が表示されない場合は、接続する機器の取扱説明書をご覧頂き、設定してください。

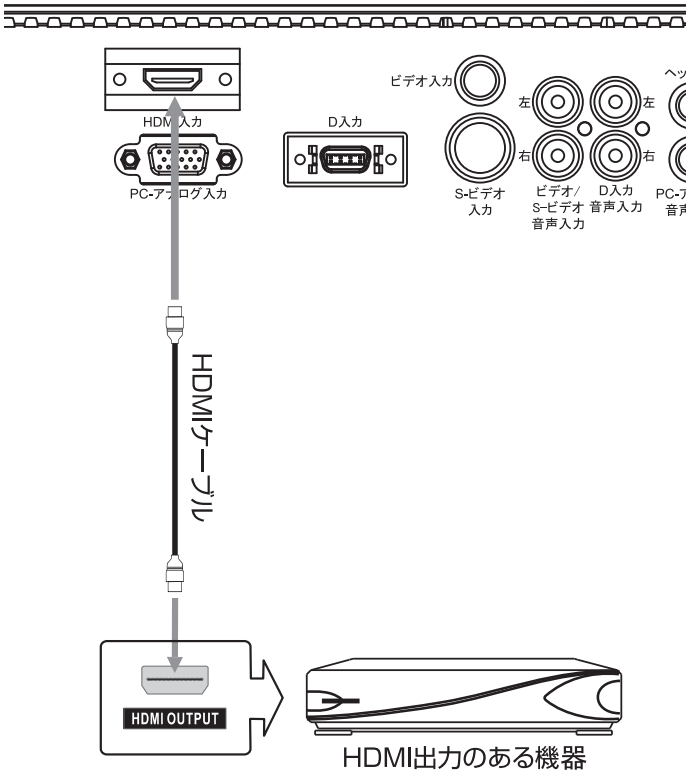


HDMI 端子に接続する

市販の HDMI ケーブルを使い、HDD レコーダー、デジタルチューナーなどの HDMI 出力と本機の HDMI をつないでください。

お知らせ

- パソコンなどの DVI 出力のある機器とも、DVI-HDMI 変換ケーブルを使うことで接続することができます。この場合は接続する機器の音声出力を、本機の D 端子用の音声入力端子に、市販のミニステレオ音声ケーブルを使用して接続してください。(DVI-HDMI 変換ケーブルを使用しての接続は保証しておりません。)
- 映像、音声が表示、出力されない場合は、接続する機器の説明書などで出力機器の設定をご確認ください。



他の機器との接続（つづき）

パソコンを接続する

VGA ケーブルでパソコンの VGA 出力と、本機の VAG 入力を接続します。音声は、音声ケーブル（ミニステレオ）を接続します。対応フォーマットは以下の通りです。

- 600 x 480 @ 60/75Hz
- 800 x 600 @ 60/75Hz
- 1024 x 768 @ 60/75Hz
- 1280 x 1024 @ 60/75Hz
- 1360 x 768 @ 60Hz
- 1440 x 900 @ 60Hz

（22FT11J-B/19HT10J-B のみ）

- 1680 x 1050 @ 60Hz

（22FT11J-B のみ）

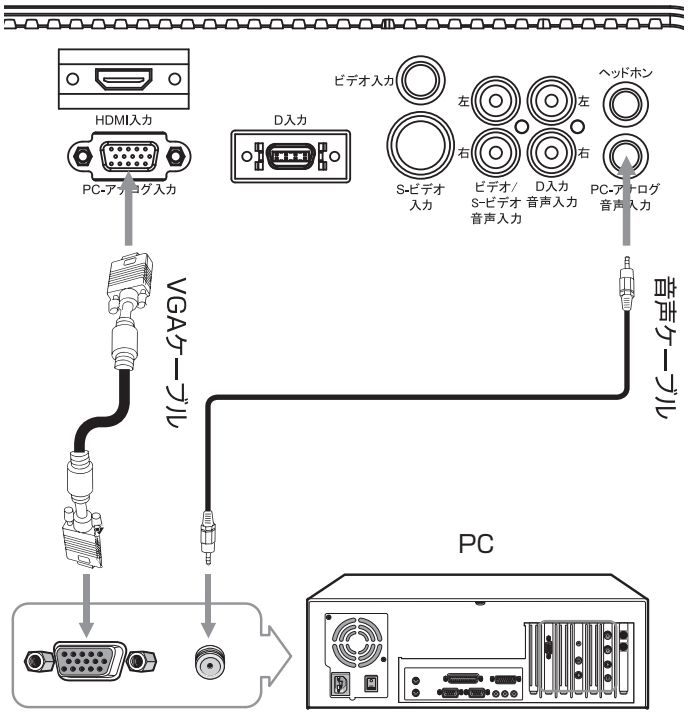
- 19200 x 1080 @ 60Hz

（22FT11J-B のみ）

パソコン側で外部出力の設定をしてください。詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

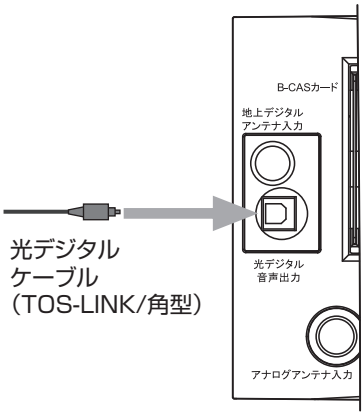
- 全てのパソコンでの動作検証は行っておりません。（Macintosh など、Windows 2000/XP 以外の動作は検証しておりません。）また、パソコンのビデオカードなどによっては、上記のフォーマットでも表示できない場合があります。



AV アンプなどを接続する

光デジタル音声出力

市販の光デジタルケーブルで AV アンプなどの光デジタル音声入力と、本機の光デジタル音声出力を接続します。光デジタル接続を使用することにより、AV アンプなどから音声を出力することができます。5.1ch の臨場感のある高音質な音声を楽しむことができます。



お知らせ

- この端子からはデジタル放送受信時のみ出力されます。
- 本機のデジタル音声出力は AAC です。PCM のみ対応の機器ではお聞きになれません。

ヘッドホンを接続する

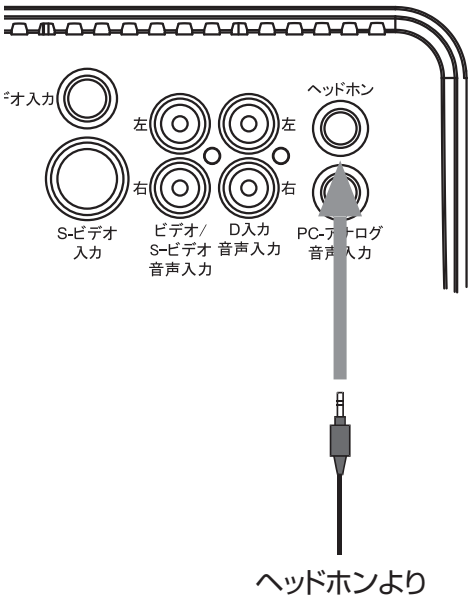
市販のヘッドホンのプラグを、本機のヘッドホンジャックに接続します。

お知らせ

- ヘッドホンを接続すると、本機のスピーカーから音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンを使用されるときは、耳を必要以上に刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳を強く刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと、災害時等に避難が遅れてしまうなどの危険があります。呼びかけられたら返事ができるくらいの音量でお聞きください。



電源コードの接続

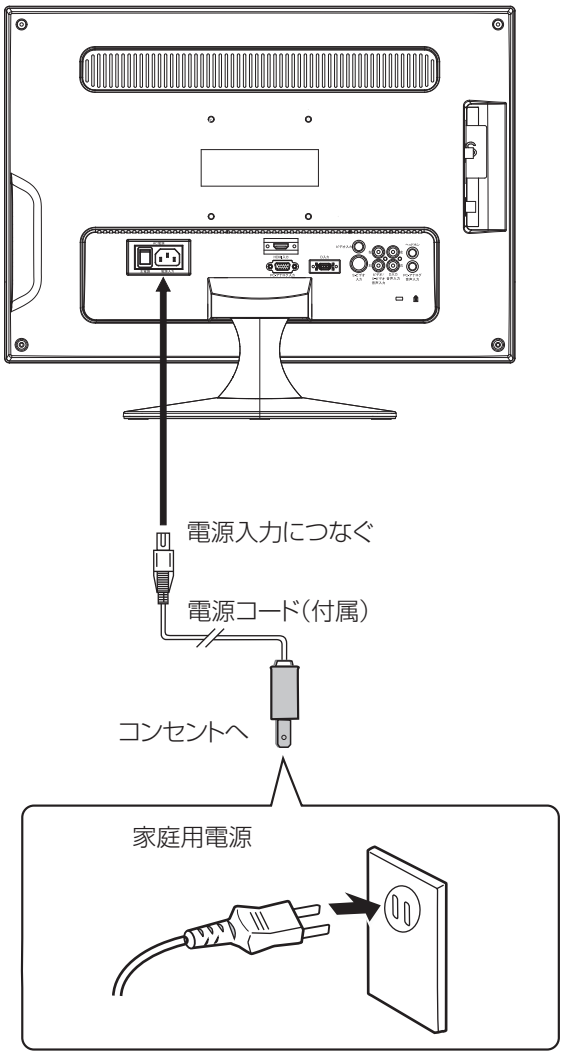
接続する

全ての接続が終わったら、最後に付属の AC（電源）ケーブル（電源コード）を接続してください。

❶ 本体裏側の主電源スイッチがオフになっていることを確認する

❷ 電源入力に付属の電源コードを接続する

❸ コンセントにプラグを挿入する



電源に関するご注意

- 電源コードは必ず最後に接続してください。
- 付属の AC（電源）ケーブル（電源コード）は、本機専用です。他の機器では使用しないでください。また、本機に他の AC（電源）ケーブルを使用しないでください。
- 電源プラグは、抜き差しがしやすい位置の、壁のコンセントに直接差すようにしてください。
- 接続後は、電源プラグをコンセントに差したままご使用ください。
- 使用中に電源プラグを抜いたり、電源を突然遮断しないようにしてください。設定等が無効になってしまうことがあります。

テレビを見る

この章では、テレビを見るための基本的な使いかたについて説明しています。

●電源と音量 P36

●テレビを見るための準備 P37

●チャンネルを選ぶ P38

●デジタル放送を楽しむ P39

電源と音量

電源を入れる / 切る

電源を入れる

❶ 電源プラグをコンセントに差す

❷ 本体裏側の **[主電源]** をオンにする

●本体の電源ランプがオレンジ色に点灯します。

❸ **[電源]** を押す

●本体の電源ランプが青く点灯します。

電源を切る

❶ **[電源]** を押す

●本体の電源ランプがオレンジ色に点灯します。

ご注意

●本機は電源スイッチを切っただけでは完全に電源から切り離されておらず、常に微弱な電流が流れています。旅行などで本機を長時間使用されないときは、本体の **[主電源]** をオフにするか、コンセントを抜いて（電源ランプ : 消灯）ください。

音量を調節する

[ー - 音量 - ＋] を押す

一時的に音を消す

[消音] を押す

もとに戻すには

●**[消音]** を再度押す

●**[ー - 音量 - ＋]** を押す

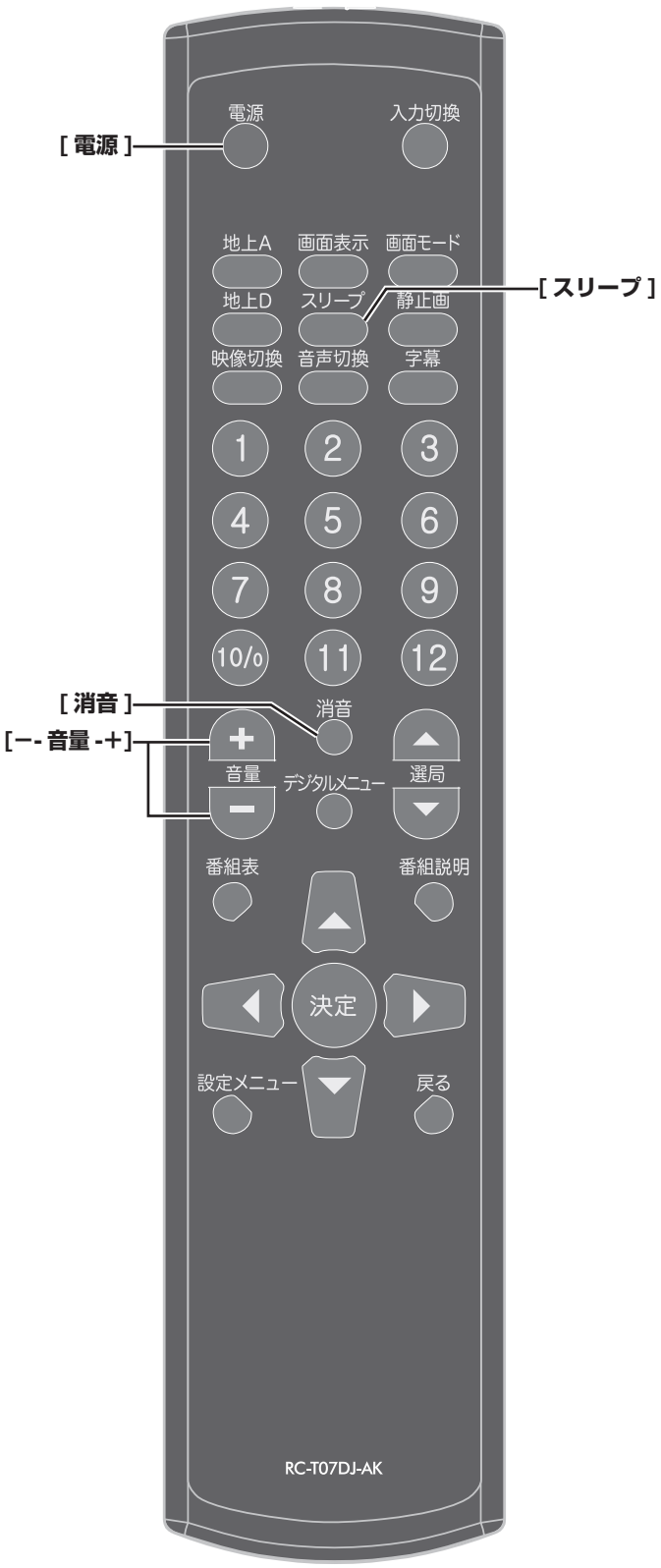
スリープタイマー

本機の電源を切るまでの時間を設定します。

❶ **[スリープ]** を押す

●設定範囲

0（オフ）、15 分、30 分、45 分、60 分



テレビを見るための準備

ご注意

- 本機を初めてご利用される場合は、下記の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビ放送を正常に受信できないため、視聴できるはずの番組が視聴できなくなります。

デジタル放送を見るための準備

1　条件を整える

デジタル放送を受信するには、以下の準備が必要です。詳しくは、本書の「機器の準備をする」章（☞ 25 ページ）をご覧ください。

1. 専用のアンテナを接続する
2. B-CAS カードの準備をする

2　本機の設定を行う

本機を初めてご利用される場合や、お客様の居住エリアが変わった場合は、初期設定を行う必要があります。
左記の条件を整えた後、**[デジタルメニュー]** を押してデジタルメニューに入り、次に「基本設定」の項目で「チャンネルスキャン」（☞ 42 ページ）を行ってください。

アナログ放送を見るための準備

1　条件を整える

アナログ放送を受信するには、以下の準備が必要です。詳しくは、本書の「機器の準備をする」章（☞ 25 ページ）をご覧ください。

1. 専用のアンテナを接続する

2　本機の設定を行う

本機を初めてご利用される場合や、お客様の居住エリアが変わった場合は、初期設定を行う必要があります。
左記の条件を整えた後、設定メニューの「チャンネル設定」の各設定を行ってください。（☞ 55 ページ）

チャンネルを選ぶ

お知らせ

- チャンネルを選んでから映像が切り換わるまでに時間がかかる場合がありますが、映像信号の変換等に時間がかかるためで、故障ではありません。
- 放送局番号と物理チャンネル
  デジタル放送では 1 つのチャンネルで最大 3 つの番組を放送できます。このため、チャンネルを指定しただけではどの番組を見るのか特定できません。そこで、3 桁の放送局番号によって番組を特定できるようになっています。最初の 2 桁が放送局を示し、最後の 1 桁でそのチャンネルのどの番組かを指定します。
  また、今までの UHF 帯のチャンネル番号をこの放送局番号と区別するために「物理チャンネル」と呼んでいます。

入力を切り換える

❶ **[地上 A]/[地上 D]** を押して放送の種類を選ぶ

チャンネル番号で選局する（ワンタッチボタン選局）

❶ お好みのチャンネルを数字ボタンで入力する

選局ボタンで選局する

❶ **[▲- 選局 -▼]** を押して選局する

デジタル放送を楽しむ

共通の操作

チャンネル情報を表示する

チャンネル情報を表示させます。

❶ **[画面表示]** を押す

●もう一度 **[画面表示]** を押すと、表示が消えます。

音声を切り換える

スピーカー（またはヘッドホン）から出力する音声を切り換えます。

❶ **[音声切換]** を押す

●押すごとに、番組ごとに設定された音声の選択肢の中で切り換わります。

字幕を切り換える

字幕がある放送のとき、本機に出力する字幕の言語を切り換えます。

❶ **[字幕]** を押す

●押すごとに、番組ごとに設定された字幕言語の選択肢の中で切り換わります。

電子番組表を表示する

電子番組表（EPG）を表示します。

❶ **[番組表]** を押す

●もう一度 **[番組表]** を押すと、表示が消えます。

●**[▲ ▼]** を押してこれから放送される番組を選択し、**[決定]** を押すと番組説明を見ることができます。

●**[◄ ►]** を押すと次のチャンネルの番組表が表示されます。現在放送中の番組を選択して **[決定]** を押すとその番組に切り換わります。

お知らせ

●番組表を使用した視聴予約はできません。

デジタル放送を楽しむ（つづき）

共通の操作（つづき）

番組説明を表示する

選択中の番組の内容説明を表示します。

❶ **[番組説明]** を押す

- もう一度 **[番組説明]** を押すと、表示が消えます。
- 説明が一画面に収まっていない時は **[▲ ▼]** でスクロールできます。

映像情報

画面サイズ・走査線数とインターレースかプログレッシブかを表示します。

音声情報

音声に関する情報を表示します。

字幕情報

字幕の有無・言語を表示します。

コピー制御

放送内容の録画・コピーに関する情報を表示します。多くの場合、デジタル:一世代のみコピー可（コピーワンス）/ アナログ：アナログ録画可となっています。

お知らせ

- 本機からの録画は出来ません。

デジタルメニューの操作

デジタル放送をお楽しみいただく際のほとんどの操作は、デジタルメニューから行うことができます。

基本的な操作

デジタルメニュー中の操作方法は、原則的に以下の操作の組み合わせで行います。

❶ **[デジタルメニュー]** を押す

❷ **[▲ ▼ ◄ ►]** を押して項目を選ぶ

❸ **[決定]** を押して選択を確定する

お知らせ

- **[戻る]** を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- デジタルメニュー中で使用するリモコンのボタンは、画面下部に表示されますので、ご参照ください。

デジタル放送を楽しむ（つづき）

基本設定

メール

弊社や放送局からのご案内などのメールを表示します。

❶ **[デジタルメニュー]** を押す

❷ **[▲ ▼]** を押して**メール**を選び、**[決定]** を押す

❸ **[▲ ▼]** を押して読みたいメールを選び、**[決定]** を押す

お知らせ

- 未読メールがある場合、**[画面表示]** を押してチャンネル情報を表示させたとき（☞ 39 ページ）、右端にメールのマークが表示されます。

アンテナレベル

現在の受信レベルを表示します。

❶ **[デジタルメニュー]** を押す

❷ **[▲ ▼]** を押して**アンテナレベル**を選び、**[決定]** を押す

- **[▲ ▼]** を押すと他のチャンネルのアンテナレベルが表示されます。

チャンネルスキャン

本機をご使用いただく地域での、受信可能なチャンネルのスキャンを行います。

❶ **[デジタルメニュー]** を押す

❷ **[▲ ▼]** を押して**チャンネルスキャン**を選び、**[決定]** を押す

❸ **[◄ ►]** を押して都道府県地域を選び、**[決定]** を押す

- スキャン終了後、自動的にリモコンの詳細設定（次項）の画面に移行します。この設定が不要の場合は **[デジタルメニュー]** を押して画面を閉じてください。

リモコンの詳細設定

リモコンの数字ボタンへの、チャンネルの割り当てを変更します。

❶ **[デジタルメニュー]** を押す

❷ **[▲ ▼]** を押して**リモコンの詳細設定**を選び、**[決定]** を押す

●ワンタッチボタンの確認・編集画面になります。

❸ **[▲ ▼]** を押して変更したいボタン番号ぶ

❹ **[◄ ►]** を押して新規に割り当てたいチャンネルを選び、**[決定]** を押す

設定情報の初期化

本機を工場出荷時の状態に戻します。

❶ **[デジタルメニュー]** を押す

❷ **[▲ ▼]** を押して**設定情報の初期化**を選び、**[決定]** を押す

❸ **[◄ ►]** を押して開始するまたは開始しないを選び、**[決定]** を押す

●初期化が終わるとチャンネルメモリーも消去されますので、チャンネルスキャン（☞ 42 ページ）を再度行ってください。

機器情報

本機と B-CAS カードの情報を表示します。

❶ **[デジタルメニュー]** を押す

❷ **[▲ ▼]** を押して**機器情報**を選び、**[決定]** を押す

デジタル放送を楽しむ（つづき）

機器設定

字幕の設定

デジタル放送の番組のせりふなどの音声を、文字にして画面に表示する設定を行います。

❶ **[デジタルメニュー]** を押す

❷ **[◄ ►]** を押して**機器設定**を選ぶ

❸ **[▲ ▼]** を押して**字幕の設定**を選び、**[決定]** を押す

❹ **[◄ ►]** を押して項目を選び、**[決定]** を押す

● 選択項目

オフ　：字幕を表示しません。

↑↓

日本語　：日本語で字幕を表示します。

↑↓

英語　：英語で字幕を表示します。

文字スーパー

地域情報や速報など、番組に連動しない文字情報（文字スーパー）を画面に表示する設定を行います。

❶ **[デジタルメニュー]** を押す

❷ **[◄ ►]** を押して**機器設定**を選ぶ

❸ **[▲ ▼]** を押して**文字スーパーの設定**を選び、**[決定]** を押す

❹ **[◄ ►]** を押して項目を選び、**[決定]** を押す

● 選択項目

オフ　：文字スーパーを表示しません。

↑↓

日本語　：日本語で文字スーパーを表示します。

↑↓

英語　：英語で文字スーパーを表示します。

一歩進んだ使いかた

この章では、他の機器を接続した場合の操作方法や、本機の設定を変える方法など、一歩進んだ使いかたについて説明しています。

●つないだ機器を使う P46

●便利な機能 P48

●設定メニューを使う P50

つないだ機器を使う

つないだ機器の映像を見る

1　接続を確認する

30～33ページをご覧いただき、接続を確認してください。

2　入力を切り換える

❶ **[入力切換]** を押す

❷ **[入力切換]** または **[▲　▼]** を押して希望する入力を選ぶ

●3秒後に入力が切り換わります。また、**[◄　►]** または **[決定]** を押せばすぐに切り換わります。

以下の順番で切り換わります。

D　：D入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
HDMI　：HDMIに接続した機器の映像と音声を出力します。
VGA　：PC-アナログ入力端子に接続した機器の映像と音声を出力します。
デジタルTV：地上デジタル放送の映像と音声を出力します。
アナログTV：地上アナログ放送の映像と音声を出力します。
AV　：ビデオ入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
S-ビデオ：S-ビデオ入力に接続した機器の映像と音声を出力します。

（**D** に戻る）

3　つないだ機器を再生する

つないだ機器の取扱説明書をご覧いただき、機器を再生してください。

お知らせ

●つないだ機器の再生からテレビ放送受信には、以下のボタンを押して切り換えることもできます。

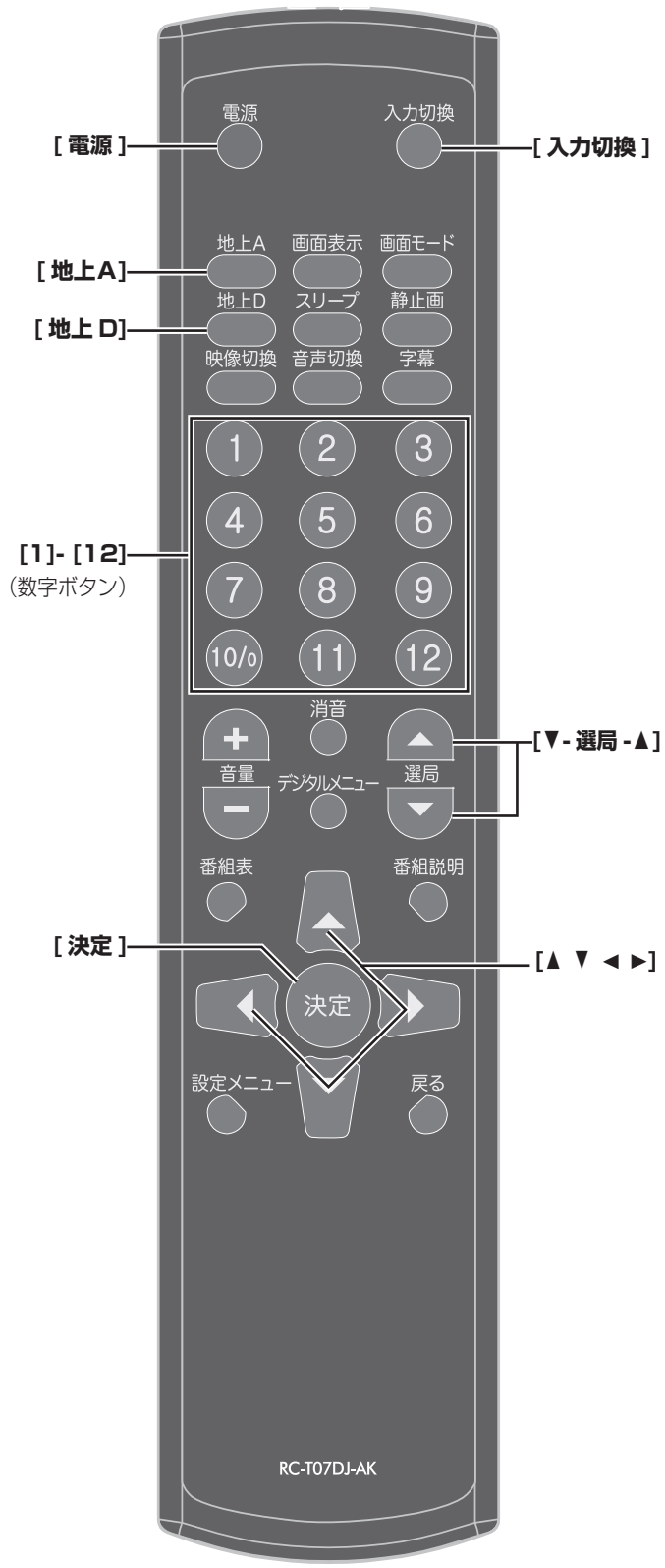
[地上A]/[地上D]：前回ご覧になっていたチャンネルを受信します。

数字ボタン：前回ご覧になっていた帯域（アナログまたはデジタル）の選択されたチャンネルを受信します。（放送のないチャンネル番号が入力された場合は前回ご覧になっていたチャンネルを受信します。）

[▼-選局-▲]：前回ご覧になっていた帯域（アナログまたはデジタル）の前回ご覧になっていたチャンネルを受信します。

ご注意

●パソコン入力の無い状態でVGAを選択すると、直ちに本機の電源が切れます。この場合、**[電源]** を押すと再び電源が入ります。



つないだ機器を通して音声を聞く

本機のデジタル放送の音声をお手持ちの AV アンプなどを使用して高音質でお楽しみいただけます。33 ページをご覧いただき、接続を確認してください。

❶ AV アンプを本機接続端子からの入力に設定する

❷ **[消音]** を押して本機を消音に設定する

便利な機能

画面と音の簡易設定

画面モードを切り換える

ワンボタンで画格の切り換えを行います。

❶ **[画面モード]** を押す

●選択項目

ズーム 1：
映像の縦横比を維持したまま中心を基準に画面を拡大します。画面の外枠が一部欠けます。

↓

ズーム 2：
ズーム 1 の画面全体を上に動かし、画面下部に出る字幕が見えるようにします。

↓

4 : 3：
映像の縦横比を維持するため、画面の左右に黒い部分ができる設定です。

↓

パノラマ：
画面いっぱいに映像を出力します。入力信号によっては映像が左右に引き伸ばされます。

↓

16 : 9（19HT10J-B のみ）：
画面いっぱいに映像を出力します。4 : 3 の標準放送の場合、映像が均等に左右に引き伸ばされます。

↓

フル：
画面いっぱいに映像を出力します。入力信号によっては映像が上下に引き伸ばされます。

↓

（**ズーム 1** に戻る）

お知らせ

●入力の種類によって選択できる画面モードは異なります。たとえば、デジタル放送でハイビジョン放送 (HDTV) 受信中はフルに固定され、変更できません。（19HT10J-B では HDTV 受信中もフルと１６：９の切り換えが出来ます。）

画面を静止させる

視聴中の画面の静止 / 再始動をします。

❶ **[静止画]** を押す

●もう一度押すともとに戻ります。

お知らせ

●VGA モードでは静止画機能は働きません。

画質モードを切り換える

ワンボタンで画質モードを切り換えます。

❶ **[映像切換]** を押す

●選択項目

スタンダード：標準モードです。

ダイナミック：カラー、シャープネス等をやや大きめに設定します。

ユーザー：設定メニューの「画質モード」の「ユーザー」で設定された画質に設定します。

音声を切り換える

スピーカー（またはヘッドホン）から出力する音声を切り換えます。

❶ **[音声切換]** を押す

アナログ放送

ステレオ放送時

●選択項目

ステレオ　：ステレオ音声を出力します。

モノラル　：モノラル音声を出力します。

２カ国語放送時

●選択項目

メイン　　：主音声を出力します。

サブ　　：副音声を出力します。

メイン / サブ：主音声と副音声を同時に出力します。

デジタル放送

音声が１つしかない場合

音声１：主のみ

２ヶ国語モノラル放送時

●選択項目

音声１：主：主音声を出力します。

音声１：副：副音声を出力します。

音声1：主/副：主音声と副音声を同時に出力します。

２ヶ国語ステレオ放送時

●選択項目

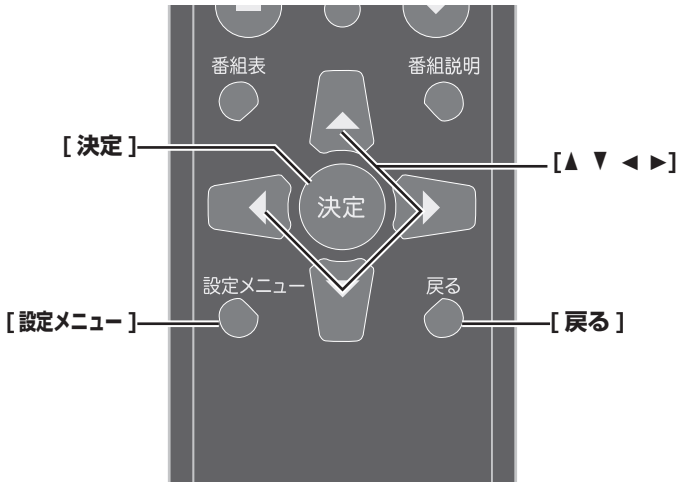
音声１：主：音声１を出力します。

音声２：主：音声２を出力します。

設定メニューを使う

設定メニューについて

本機をご使用いただく上での基本的な設定は、設定メニューを使って設定できます。



基本的な操作

設定メニュー中の操作方法は、原則的に以下の操作の組み合わせで行います。

❶ **[設定メニュー]** を押す
❷ **[▲ ▼ ◄ ►]** を押して項目を選ぶ
❸ **[◄ ►]** を押して値、項目を選択する
もしくは**[◄ ►]**または**[決定]**を押して調整バーを表示させ、**[◄ ►]** を押して値を調整する
❹ **[戻る]** を押して設定を確定し、一つ前のメニューに戻る

●ご希望の設定をすべて完了したら **[設定メニュー]** を押してメニューモードを終了します。

映像設定

本機の画像を設定します。

お知らせ

●VGA 入力・HDMI 入力の場合はこのメニューの代わりに「VGA 設定」メニュー(☞ 57 ページ)が表示されます。

画質モード

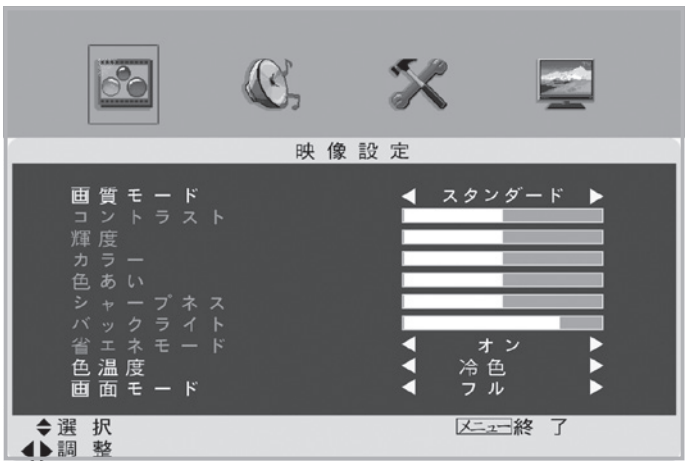
画質モードの切り替えを行います。

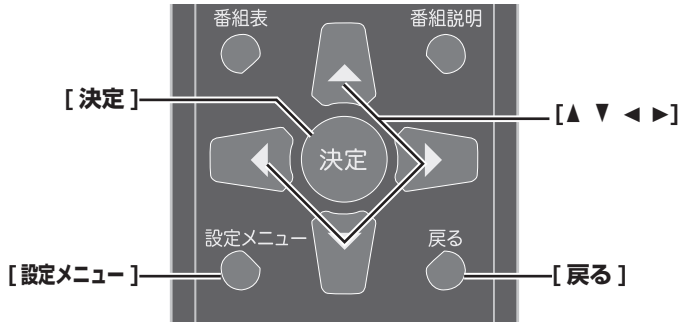
●選択項目

スタンダード：標準モードです。
ダイナミック：カラー、シャープネス等をやや大きめに設定します。
ユーザー：お客様のお好みに合わせて設定できます。

お知らせ

●**コントラスト** / **輝度** / **カラー** / **色あい** / **シャープネス** / **バックライト** / **省エネモード**は、**ユーザー**を選択した場合のみ設定できます。
●**[映像切換]** を押して設定することもできます。





映像設定（つづき）

コントラスト

映像のコントラストを設定します。

輝度

画面の明るさを調整します。

カラー

画面の色の濃さを調整します。

色あい

画面の色合いを調整します。

シャープネス

画面の鮮明さを調整します。

バックライト

液晶画面自体は光を出しません。画面の後にバックライトと呼ばれる発光体があり、そこからの光が液晶素子を通る時に遮光効果が起こり、それぞれの画素が特定の色（赤・緑・青）に光り、全体としてテレビ画面になります。このメニューはバックライトの明るさを調整します。上記の「輝度」メニューを調整しても、画面が白くなるだけで全体が明るく見えない時は、バックライトの設定が暗すぎる場合があります。本メニューで調整してみてください。

●設定範囲

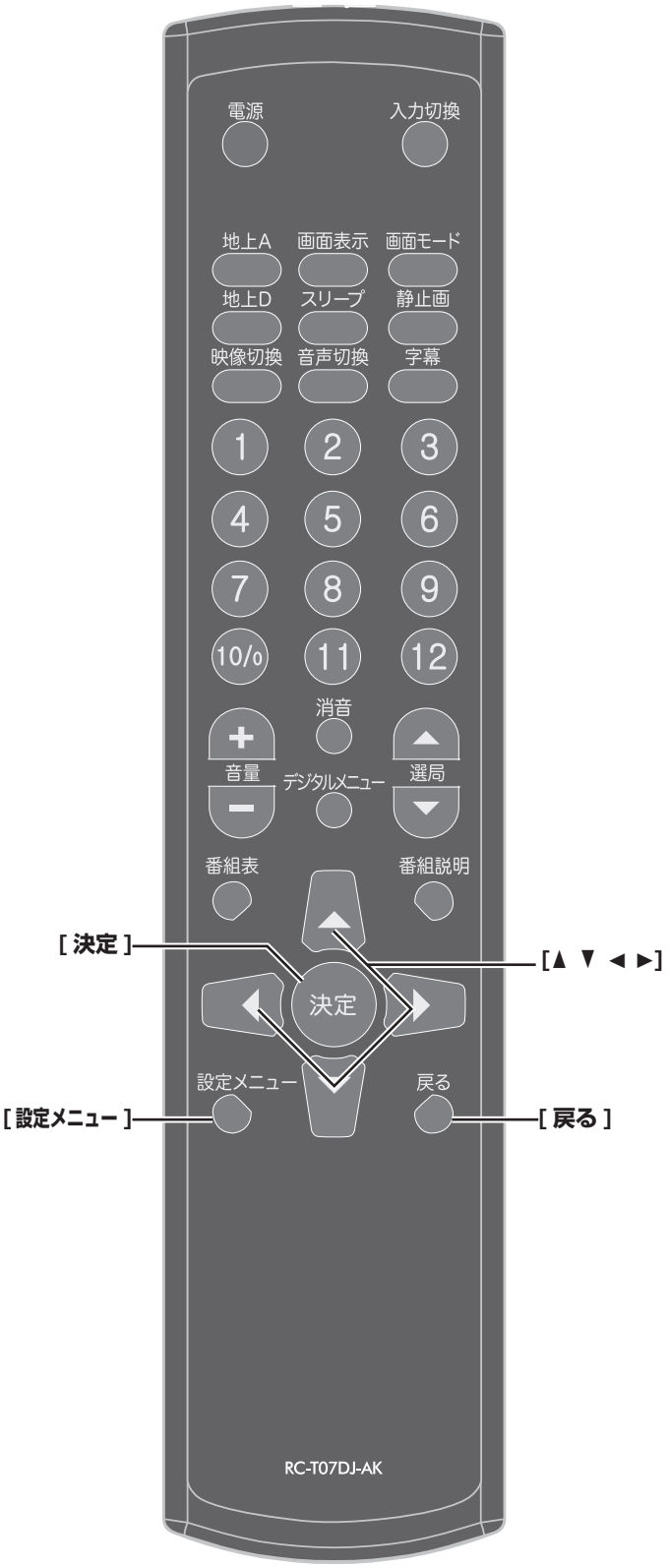
100, 80, 60, 40, 20, 0

お知らせ

●省エネモード（次項）がオンの場合は固定されて調整できません。

省エネモード

消費する電力を節約する（オン）かしない（オフ）の選択をします。



設定メニューを使う（つづき）

映像設定（つづき）

色温度

画面の色温度を設定します。

●選択項目

標準　：標準の色の濃さに設定します。

↓

暖色　：赤みの強い画面に設定されます。

↓

冷色　：青みの強い画面に設定されます。

↓

（**標準**に戻る）

画面モード

画格の切り換えを行います。

●選択項目

ズーム 1：

映像の縦横比を維持したまま中心を基準に画面を拡大します。画面の外枠が一部欠けます。

↓

ズーム 2：

ズーム 1 の画面全体を上に動かし、画面下部に出る字幕が見えるようにします。

↓

4 : 3：

映像の縦横比を維持するため、画面の左右に黒い部分ができる設定です。

↓

パノラマ：

画面いっぱいに映像を出力します。入力信号によっては映像が左右に引き伸ばされます。

↓

16 : 9（19HT10J-B のみ）：

画面いっぱいに映像を出力します。4 : 3 の標準放送の場合、映像が均等に左右に引き伸ばされます。

↓

フル：

画面いっぱいに映像を出力します。入力信号によっては映像が上下に引き伸ばされます。

↓

（**ズーム 1** に戻る）

お知らせ

●**[画面モード]** を押して設定することもできます。

●入力の種類によって選択できる画面モードは異なります。たとえば、デジタル放送でハイビジョン放送（HDTV）受信中はフルに固定され、変更できません。（19HT10J-B を除く）

音声設定

本機の音声出力を設定します。

低音

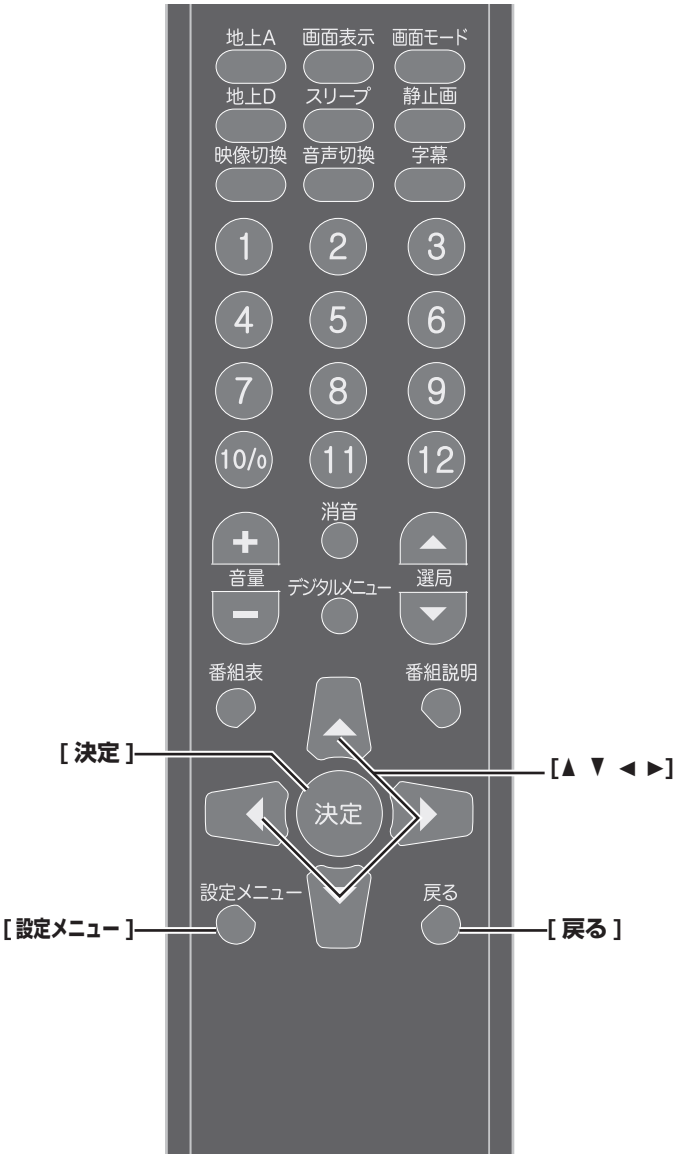
低音の調整をします。

高音

高音の調整をします。

バランス

左右のスピーカー（またはヘッドホン）の出力バランスを調整します。



設定メニューを使う（つづき）

その他設定

各種設定を行います。

水平位置

メニューの表示位置を左右方向で調整します。

垂直位置

メニューの表示位置を上下方向で調整します。

画面表示時間

メニューを表示する時間を設定します。

●選択項目

常時、15 秒 , 30 秒 , 45 秒 , 60 秒

言語

設定メニューの言語を設定をします。

●選択項目

日本語　：日本語で表示します。

↑↓

English　：英語で表示します。

消画モード

画像を消して音声のみにします。元に戻すには **[設定メニュー]** を押します。

オーバースキャン（HDMI 入力の時のみ）

パソコンの画面には、通常画面よりはみ出している部分があります。このはみ出し部分を表示するかしないかを選択します。

●選択項目

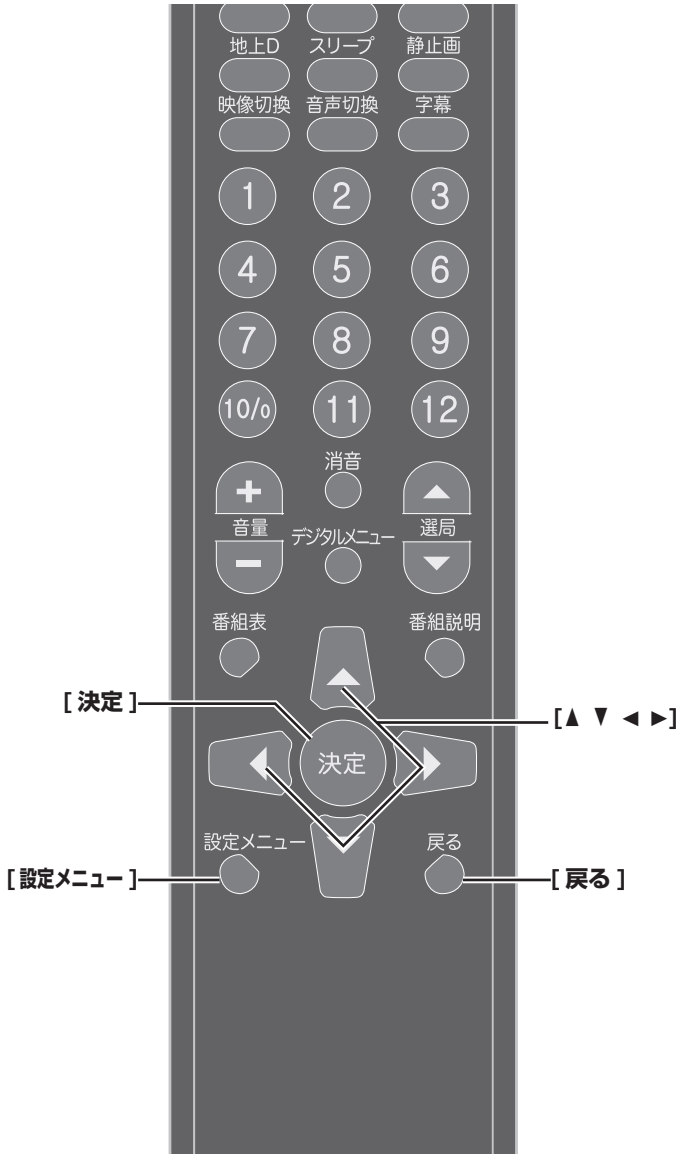
オン　：はみ出し部分を表示しません。

↑↓

オフ　：通常ははみ出して見えない部分を、画面内におさめて表示します。

ユーザーリセット

映像・音声などの設定を工場出荷時の状態に戻します。



チャンネル設定

アナログ放送の受信設定を行います。

放送切換

受信する放送の種類を選択します。

●選択項目

テレビ　：地上アナログ放送を受信します。

↑↓

ケーブルテレビ：ケーブルテレビを受信します。

音声切換

スピーカー（またはヘッドホン）から出力する音声を切り換えます。

ステレオ放送時

●選択項目

ステレオ　：ステレオ音声を出力します。

↑↓

モノラル　：モノラル音声を出力します。

2 カ国語放送時

●選択項目

メイン　　：主音声を出力します。

↓

サブ　　：副音声を出力します。

↓

メイン / サブ：主音声と副音声を同時に出力します。

↓

（**メイン**に戻る）

お知らせ

●**[音声切換]** を押して設定することもできます。

自動設定

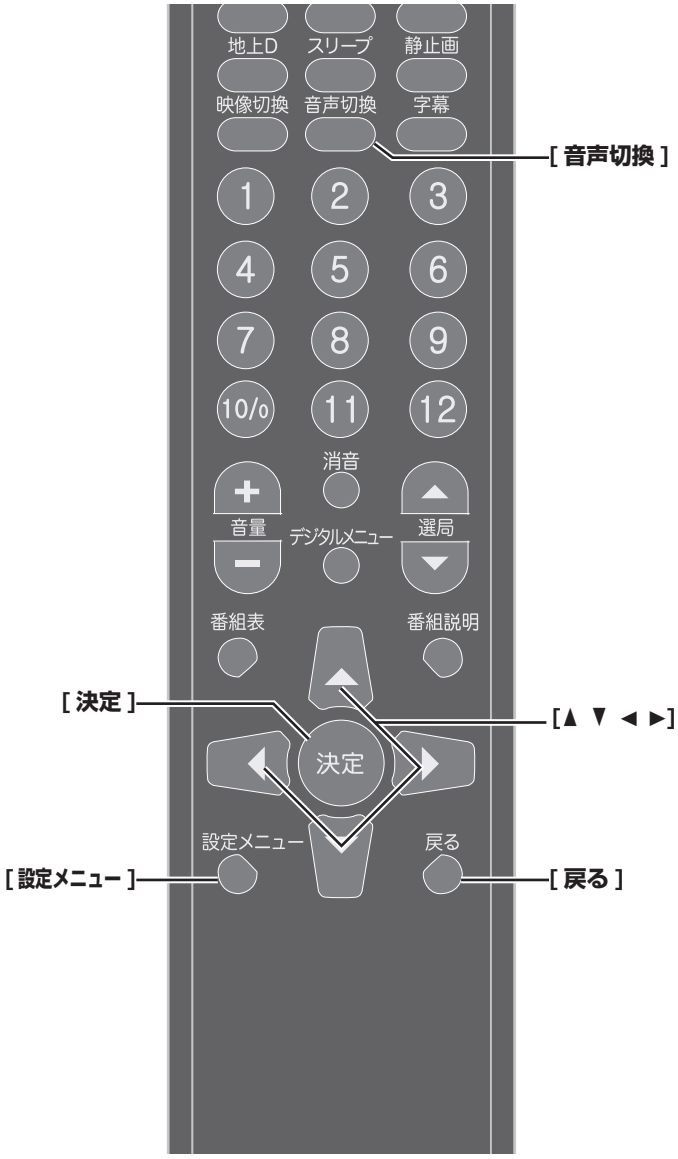
本機で受信できる放送局を各チャンネルへ割り当てます。

チャンネル設定

下記の**微調整**や、**追加 / 削除**を適用するチャンネルを選択します。

ラベル付け

チャンネルに名前をつけます。**[◄ ►]** を押して入力する部分を選び、**[▲ ▼]** を押して０～９、Ａ～Ｚの数字を入力します。



設定メニューを使う（つづき）

チャンネル設定（つづき）

微調

受信周波数の微調整を行います。

チャンネル編集（地上アナログ放送のみ）

チャンネル番号の、本機のボタン番号への割り当てを変更します。

❶ **[◄ ►]**を押して､地域番号を選ぶ（☞70 ページ）

❷ **[▲ ▼]** を押して変更したいボタン番号を選ぶ

❸ **[◄ ►]** を押して割り当てたいチャンネル番号を選ぶ

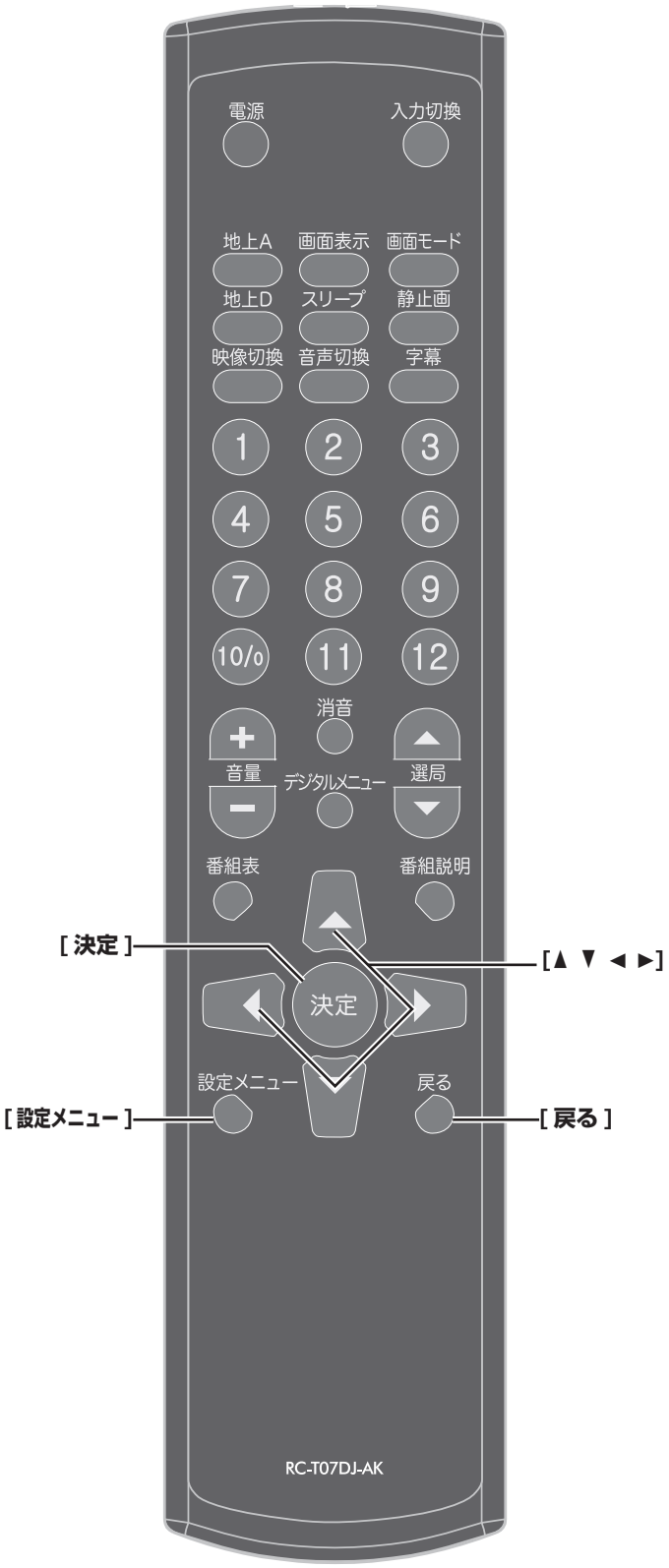
追加 / 削除（ケーブルテレビのみ）

順送りに選局する際に、現在選択しているチャンネルをスキップするかしないかの設定をします。

削除　：スキップします。

↑↓

追加　：スキップしません。



VGA 設定

パソコン入力時の設定を行います。

お知らせ

●VGA/HDMI 入力時のみ表示されます。

画質モード

画質モードの切り替えを行います。

●選択項目

スタンダード：標準モードです。

ダイナミック：カラー、シャープネス等をやや大きめに設定します。

ユーザー：お客様のお好みに合わせて設定できます。

お知らせ

●**省エネモード** / **バックライト** / **コントラスト** / **輝度**は、**ユーザー**を選択した場合のみ設定できます。

省エネモード

消費する電力を節約する（オン）かしない（オフ）の選択をします。

バックライト

液晶画面自体は光を出しません。画面の後にバックライトと呼ばれる発光体があり、そこからの光が液晶素子を通る時に遮光効果が起こり、それぞれの画素が特定の色（赤・緑・青）に光り、全体としてテレビ画面になります。このメニューはバックライトの明るさを調整します。上記の「輝度」メニューを調整しても、画面が白くなるだけで全体が明るく見えない時は、バックライトの設定が暗すぎる場合があります。本メニューで調整してみてください。

●設定範囲

100, 80, 60, 40, 20, 0

お知らせ

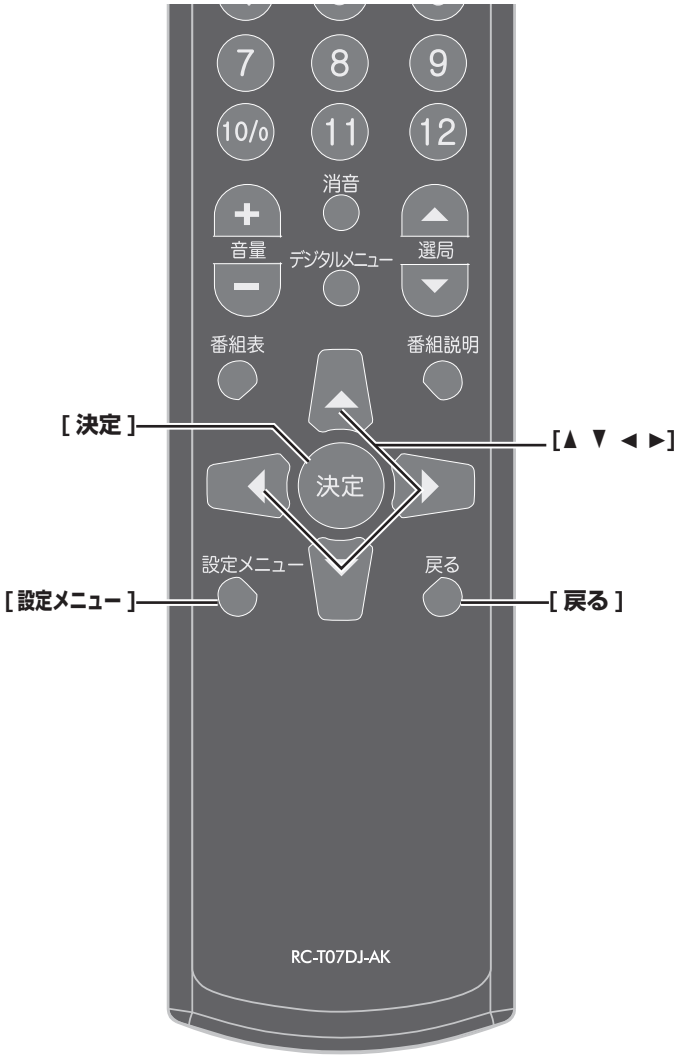
●省エネモード（次項）がオンの場合は固定されて調整できません。

コントラスト

映像のコントラストを設定します。

輝度

画面の明るさを調整します。



設定メニューを使う（つづき）

VGA 設定（つづき）

色温度

画面の色温度を設定します。

●選択項目

標準　：標準の色の濃さに設定します。

↓

暖色　：赤みの強い画面に設定されます。

↓

冷色　：青みの強い画面に設定されます。

↓

Windows 標準：sRGB の標準に設定されます。sRGB に対応した入出力機器を使用することにより、入力と出力の色温度の差異を小さくすることができます。

↓

ユーザー：赤（R）、緑（G）、青（B）をそれぞれ調整してお好みの色温度に設定します。

↓

（**標準**に戻る）

画面自動調整（PC 入力のみ）

画面に対する映像の表示位置を調整します。

水平位置（PC 入力のみ）

画面に対する映像の表示位置を左右方向で調整します。

垂直位置（PC 入力のみ）

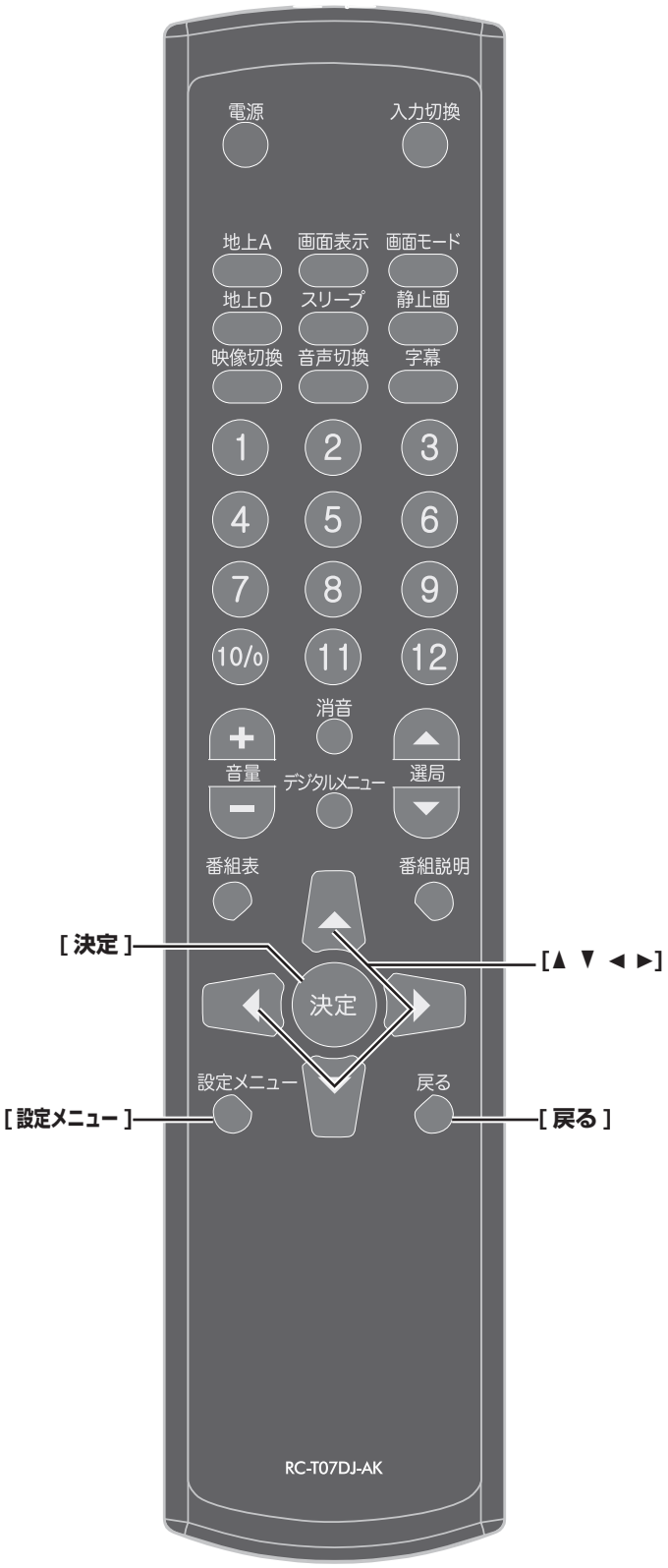
画面に対する映像の表示位置を上下方向で調整します。

水平サイズ（PC 入力のみ）

画面に対する映像の表示サイズを左右方向で調整します。

位相（PC 入力のみ）

位相の遅延を微調整します。画像が鮮明でない場合等にお試しください。



その他の情報

この章では、故障かなと思った場合の対処方法や用語の説明など、必要に応じてご参照いただく内容を記載しています。

●故障かな？と思ったら P60

●用語の解説 P64

●主な仕様 P66

●アナログ放送チャンネル地域番号 P70

●保証とアフターサービス P72

故障かな？と思ったら

お問い合わせの前に

まず、以下の点をご確認ください。

- アンテナ線や電源コード、その他の接続
- 入力切換の設定
- 地上デジタル放送の受信チャンネルのスキャン状態（☞ 42 ページ）（地上デジタル放送は受信チャンネルのスキャンを行わないと受信できません。）

以下の状態は故障ではありません。

画面の中に、点灯したままの点、または点灯しない点がある

画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）が表れたりしますが、故障ではありません。液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

ときどき「ピシッ」というきしみ音が出る

周囲との温度差によってキャビネットがわずかに伸縮するために起こる音です。故障ではなく、性能等におよぼす悪影響もありません。

デジタル放送のチャンネルを変えたり、番組が切り換わったりするときにノイズが出る

デジタルハイビジョン信号と標準テレビ信号など、映像の解像度が変化するときに、同期信号など白い線が見えることがあります。

原因と対策

●全般

問題	原因	対策
映像も音も出ない。	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをコンセントに挿してください。
	[主電源] がオフになっている。	**[主電源]** をオンにしてください。
	入力選択が適切でない。	見たい映像の入力を選択してください。
電源が突然切れた / いつの間にか切れていた。	スリープタイマーが設定されている。	スリープタイマーをオフにしてください。
リモコンが動作しない。	電池が適切に入っていない。	指定された電池を、指定された向き（+ −）で、適切に入れてください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。
	向きが適切でない。	リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
	本機のリモコン受光部に、強い光が当たっている。	リモコン受光部に強い光が当たっていると、操作を受け付けない場合があります。カーテンやその他の遮蔽物で光を調整してください。
	近くに電子レンジがある。	近くに電子レンジがあると、操作を受け付けない場合があります。できるだけ本機と電子レンジは離して設置してください。

●映像（全般）

問題	原因	対策
色がおかしい / 画面が暗い。	画質が適切に設定されていない。	画質を適切に設定してください。（☞ 49・50 ページ）
画面がまぶしい。	画質が適切に設定されていない。	画質を適切に設定してください。（☞ 49・50 ページ）
画面が一部切れる / 画面が歪む。	画面モードが適切でない。	**[画面モード]** または設定メニューで適切な設定を選んでください。（☞ 48・52 ページ）

●映像（地上アナログ）

問題	原因	対策
受信できないチャンネルがある。	チャンネル設定が適切でない。	チャンネル設定をしなおしてください。(☞55ページ)
画像が二重 / 三重になる。	アンテナ線の接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	アンテナの位置 / 方向 / 角度が適切でない。	適切に調整してください。
雪が降っているような画面 / 薄い画面 / ちらついた画面になる。	アンテナ線の接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	アンテナが壊れたり曲がったりしている。	アンテナの修理または買い替えを行ってください。
	アンテナが老朽化している。	アンテナの修理または買い替えを行ってください。
斑点や点模様が出る。	アンテナ線の接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	ヘアードライヤー、自動車、バイク等の電波干渉を受けている。	道路などの雑音電波のもとから、アンテナをなるべく離して設置してください。
色じま模様等のノイズが多い。	雑音電波の影響を受けている。	アンテナ線は電源コードや他の接続ケーブルからできるだけ離してください。
		フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいので、できるだけ使用しないでください。

●映像（デジタル放送）

問題	原因	対策
映像も音も出ない。	強風などでアンテナの向きが変わっている。	アンテナの向きを適切に調整してください。
	入力選択が適切でない。	見たい映像の入力を選択してください。(☞46ページ)
	B-CAS カードが適切に挿入されていない。	適切に挿入してください。(☞ 27 ページ)
地上デジタルの受信設定ができない / 放送を受信できない。	アンテナが適切に接続されていない。	地上デジタルアンテナ入力にアンテナをしっかりと接続してください。
	アンテナが地上デジタルに対応していない。	地上デジタルに対応したアンテナを使用してください。
	チャンネル設定が適切でない。	チャンネル設定をしなおしてください。
地上デジタルが映らない / 画像が乱れる。	アンテナ線の接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	アンテナの位置 / 方向 / 角度が適切でない。	適切に調整してください。
	本機の近くで携帯電話や電子レンジを使用している。	本機の近くでの携帯電話や電子レンジの使用をおやめください。
	チャンネル設定が適切でない。	チャンネル設定をしなおしてください。(☞42ページ)
	ブースターのレベルを上げすぎている。	ブースターのレベルを下げてください。
画面が暗くなり、何も映らない。	ラジオ放送を受信している。	デジタル放送では音声のみの放送もあります。映像を楽しみたい時は、他のチャンネルをお選びください。
	消画モードになっている。	**[設定メニュー]** を押して消画モードをキャンセルして下さい。

●接続した機器について

問題	原因	対策
接続した機器の映像が出ない。	コードの接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	入力選択が適切でない。	見たい映像の入力を選択してください。(☞46ページ)
	接続した機器の出力設定が適切でない。	接続した機器の取扱説明書をご覧になり、設定しなおしてください。
パソコンの画像が出ない。	パソコンが、テレビに画像を出力できるように設定されていない。	パソコンの取扱説明書をご覧になり、設定しなおしてください。
ビデオの再生 / 録画時に縞状のノイズが出る。	ビデオデッキが本機の近くにあるため、電磁波の干渉が起きている。	ビデオデッキを本機からなるべく離して設置してください。
ビデオの再生 / 録画時に映像が乱れたり、映らなくなったりする。	コンポジット映像信号（通常の映像信号）やＳ映像信号を、AV アンプなどの外部機器を通してコンポーネント映像信号に変換すると、映像が乱れたり、映らなくなることがあります。	コンポジット映像信号またはＳ映像信号を、本機の AV 入力に直接接続してください。

故障かな？と思ったら（つづき）

●音声（全般）

問題	原因	対策
映像は出るが、音が出ない。	音量が下がりきっているか、「消音」になっている。	音量を上げてください。
片方からしか音が聞こえない / 左右の音量に差がある。	バランス設定が適切でない。	設定メニューでバランスを調整してください（☞ 53 ページ）

●音声（地上アナログ）

問題	原因	対策
雑音が多い。	雑音電波の影響を受けている。	アンテナ線は電源コードや他の接続ケーブルからできるだけ離してください。
		フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいので、できるだけ使用しないでください。
聞きたい音声になっていない。	主音声 / 副音声の設定が適切でない。	主音声 / 副音声の設定をしなおしてください。（☞ 49・55 ページ）

●音声（デジタル放送）

問題	原因	対策
音声が出ない / 音声がおかしい。	主音声 / 副音声の設定が適切でない。	主音声 / 副音声の設定をしなおしてください。（☞ 49・55 ページ）

●音声（接続した機器）

問題	原因	対策
画像は出るが、音が出ない。	接続した機器の音声出力設定が適切でない。	接続した機器の取扱説明書をご覧になり、設定しなおしてください。
	音声ケーブルが正しく接続されていない。	音声ケーブルを正しく接続してください。

●番組表

問題	原因	対策
番組表や他チャンネルリストが表示されないチャンネルがある。	一定時間視聴するか、待機状態にしないと表示されません。	しばらくお待ちいただくか、待機状態にしてください。
	チャンネル登録していない。	チャンネル登録をしてください。
チャンネル検索で表示される番組が少ない。	電源コードを抜いている間（電源ランプ：消灯）は、放送局が送信する番組情報を取得できないため。	リモコンの電源ボタンで電源を切り、待機状態（電源ランプ：赤）にしてください。
地上デジタルの放送局のマークが表示されない。	一定時間視聴しないと、表示されません。	しばらくそのままお待ちください。

●その他

問題	原因	対策
▼- 選局 -▲ ボタンで選局できない。	チャンネル登録されてない。	チャンネル登録をしてください。
	複数のチャンネルで同時に同じ番組を放送しているときに、代表チャンネル以外を選局しようとしている。	代表チャンネル以外は選択できませんので、代表チャンネルで選局してください。
設定が正しく反映されない。	本機に設定が反映（記録）される前に電源を切った。	デジタル放送の信号には、多くの情報が含まれています。そのため、メニューの項目を設定した直後（約２分以内）に主電源を切ると、設定した内容が反映されないことがあります。このときは、もう一度設定をしなおしてください。
メニューが表示されない。	ソースによっては表示されないメニューもあります。	ソースを切り換えてください。

●こんな表示が出たときは

エラー番号	エラー内容	対応方法
なし	地上デジタル放送を視聴するためにはメニューよりチャンネルスキャンを行ってください。	チャンネル設定をし直してください。
E202	信号が受信できません。 (E202)	アンテナケーブルが切れている、地上デジタルアンテナ入力とアナログアンテナ入力とが逆に接続されているなどで、全く信号入力がない場合に表示されます。アンテナケーブルが切れている場合はケーブルを交換し、正しく接続してください。
E203	現在放送されていません。 (E203)	受信信号が弱い時や、無い時に表示されます。一旦受信できる状態で、初期スキャンを行い、チャンネル設定を実施してください。
E204	このチャンネルはありません。(E204)	一時的に放送休止中です。他のチャンネルを選択してください。
なし	Ｂ－ＣＡＳカードが未挿入です。	Ｂ－ＣＡＳカードが挿入されているか確認してください。カードの裏表、挿入方向を確認して、再挿入してください。まれにカードの不良もあり得ます。
なし	このカードは使用できません。正しいＢ－ＣＡＳカードを装着してください。	使用できないＢ－ＣＡＳカードです。正しいＢ－ＣＡＳカードを挿入してください。
なし	Ｂ－ＣＡＳカードを交換してください。	Ｂ－ＣＡＳカードを交換してください。
なし	現在、XXXch で緊急警報放送を行っております。	緊急警報放送のチャンネルを選局してください。

用語の解説

下記は一般的な用語解説です。本機の仕様は異なっている場合があります。

110 度 CS デジタル放送（本機は対応しておりません）

BS デジタル放送の放送衛星（BS）と同じ東経 110 度に打ち上げられた通信衛星（CS）を利用した新しいデジタル放送です。多数の専門チャンネルの中から見たいチャンネルのみを購入して視聴する仕組みになっています。一部、無料放送もあります。

5.1ch

左右のフロントスピーカー、センタースピーカー、左右のサラウンドスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンド方式です。臨場感と迫力のある音声を楽しむことができます。

AAC（Advanced Audio Coding）

デジタル放送で標準に定められたデジタル音声圧縮方式です。高い圧縮率で高い音質を実現します。

B-CAS カード

デジタル放送を見るために必要な IC カードです。ユーザー認識のための番号や、チャンネルの契約・購入内容などの情報が記録されます。

BS デジタル放送（本機は対応しておりません）

2000 年 12 月から本格サービスが開始された新しい衛星放送です。高画質で多チャンネルの放送を楽しむことができます。高音質のデジタル音声放送（BS ラジオ）、ニュース・スポーツ・番組案内などの情報提供、オンラインショッピングやクイズ番組などへの参加が可能なデータ放送など、多彩なサービスを行います。

CATV（ケーブルテレビ）

同軸ケーブルや光ケーブルなどのケーブルを用いて行われる有線放送のことです。ケーブルテレビ局と契約することにより視聴できます。地域密着型の譲歩発信等が特徴でしたが、最近では多チャンネル放送や自主放送を行う都市型のケーブルテレビ局も増えてきています。

D 端子

デジタル映像の圧縮データや高画質映像信号の伝送に適した、日本独自のコネクタの通称です。輝度信号（Y）と色差信号（Cb/Cr, Pb/Pr）で構成されるコンポーネント信号は従来 3 本のケーブルで接続していましたが、これを一本にまとめたものが D 端子です。また、これらの信号の他に走査線数・走査方式・アスペクト比を切り換えるための識別信号の伝送も可能です。

EPG（Electronic Program Guide）

デジタル放送で放送局から送られてくる番組データを利用してつくる電子番組表のことです。

HDMI（High Definition Multimedia Interface）

PC とディスプレイの接続標準規格である DVI に、マルチチャンネル音声伝送機能や著作権保護機能、色差伝送機能を加えるなど AV 家電向けにアレンジしたインターフェースです。1 本で非圧縮の映像・音声信号と制御信号を伝送できるので、AV 機器間の連携が容易にできます。

MPEG（Moving Picture Experts Group）

デジタル動画圧縮技術の 1 つです。動画中の動く部分だけを保存するなどしてデータを圧縮します。デジタルテレビでは通常 MPEG-2 が採用されていますが、これは動画データを 40 分の 1 程度に圧縮することができます。

NTSC（National Television Standards Committee）

地上波アナログカラーテレビ放送の規格の 1 つで、日本や北米、中南米で採用されています。水平方向の走査線数が 525 本で毎秒 30 フレーム（1 秒間に 30 回画面を書き換える）のインターレース方式で、水平走査周波数は 15.75kHz、垂直走査周波数は 60Hz です。

PCM（Pulse Code Modulation）

音声などのアナログ信号をデジタル信号に変換する方式の 1 つです。音楽 CD（CD-DA）はこの方式を採用しています。

PPV（Pay Per View）

番組単位で購入する有料番組のことです。

S 映像端子

S 端子は輝度信号（Y）と色信号（C）に別れた映像信号を伝送します。このうち、色信号（C）に画面の縦横比の情報を乗せることで、テレビ側での自動判別を可能にしたものが S1/S2 映像端子です。

イベントリレー

番組の途中で割り込みがあったり、その他の理由で番組が放送予定時間内に終わらなかった場合に、他のチャンネルで引き続き放送を行うことです。

インターレース（飛び越し走査）

NTSC 方式のテレビやビデオの画像表示では、525 本の走査線があります。このうち、まず奇数段目の走査線 262.5 本を 1/60 秒で描き（この画面を 1 フィールドといいます）、次に偶数段目を同様に描き、これを合わせることによって 525 本の完全な画像（フレーム）を作っていく方式です。「525i」「1125i」の「i」は、このインターレース（interlaced）を指しています。

コピーワンス

デジタル放送のデータは基本的には何度コピーしても品質は劣化しません。このため、著作権保護のためにコピーは一度だけ可能という処理がされています。たとえば、お手持ちのハードディスクレコーダーに録画することは可能ですが、ハードディスクから更に DVD 等に二回目のコピーをすることは出来ません。

コンポジット接続

通常の映像端子を使って映像信号を伝送する、最も普及している方式です。映像端子は通常 1 つのみで、音声端子と同じ形状で、色は黄色です。赤と白の音声出力と一緒に 3 本で接続するのが一般的です。

緊急警報放送

地上デジタル /BS デジタルのマルチ放送を利用し、地震などの災害時に放送される緊急ニュースなどを流します。

降雨対応放送

激しい雨による映像・音声の遮断を防ぐために、通常の放送に平行して降雨に強い方式で同じ番組を放送するものです。

字幕放送

せりふなどの音声を、文字にして画面に表示することができる放送です。

走査線

テレビでは、映像を細い糸のように分解し、横方向に走らすことによって画面を作っています。この糸を走査線といいます。走査線の数が多いほど画質がよくなります。

地上デジタル放送

2003 年 12 月から一部地域で放送が開始された、地上波によるデジタル放送です。UHF の周波数帯域を利用して放送されます。ゴーストの無い高画質な映像と多チャンネルの放送を楽しむことができます。デジタルハイビジョン放送やデータ放送、双方向サービスなどを楽しむことができます。

デジタルハイビジョン放送

通常のアナログ放送の走査線が 525 本であるのに対し、1125 本や 750 本のプログレッシブの高画質な映像です。大画面の映像に適しています。

プログレッシブ（順次走査）

飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、全ての走査線を順番に描く方法です。インターレースに比べて画像のチラツキが少なく、文字や静止画を表示することに適しています。「525p」や「750p」の「p」はプログレッシブ（progressive）を指しています。

マルチチャンネル放送

地上デジタルや BS デジタルの標準テレビ信号（SD）で、1 つの放送局で複数の番組を放送することです。

マルチビュー放送（本機は対応しておりません）

前述のマルチチャンネルの技術を使って、同じ番組を別の視点から見た映像を見るなど、複数の映像を切り換えて見ることができます。

有効走査線数

走査線の中で、映像信号が載っている走査線の数をいいます。地上アナログでは 525 本の走査線のうち有効走査線数は 480 本、デジタルハイビジョンでは 1125 本のうち 1080 本となっています。有効走査線ではない走査線には、画面の縦横比を規定した識別制御信号などが載っています。

臨時放送

前述のマルチチャンネルの技術を使って、同一放送局の他チャンネルで臨時の放送を行うことです。

主な仕様

この製品は日本国内専用です。外国では電源電圧、放送方式が異なるため使用できません。
This TV is designed only for use in Japan and cannot be used in any other countries.

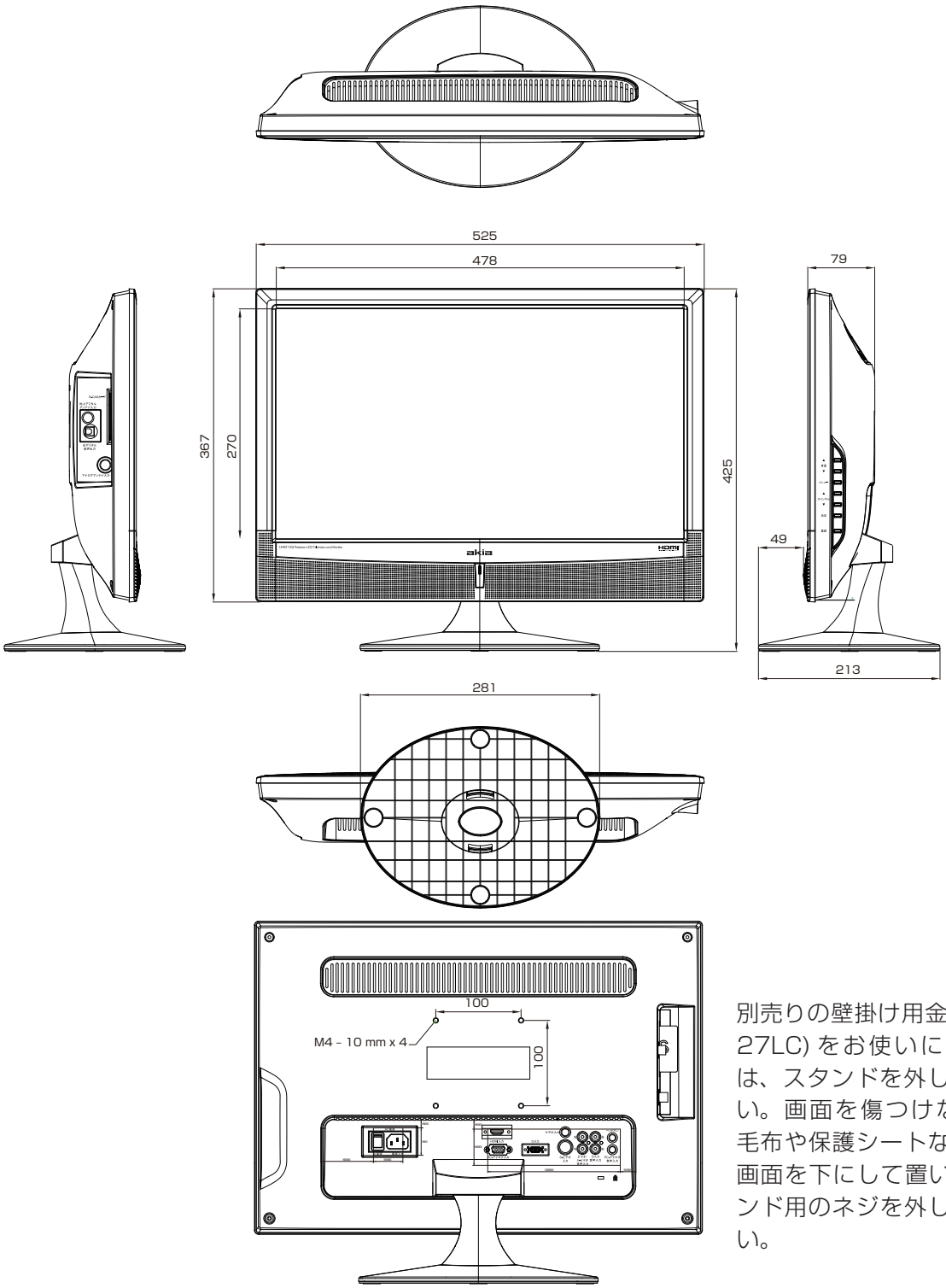
	地上デジタル 22 型 液晶テレビ	地上デジタル 19 型 液晶テレビ	地上デジタル 16 型 液晶テレビ
型名	22FT11J-B	19HT10J-B	16HT01J-B
使用電源	AC100V 50/60Hz		
消費電力／待機電力	55W/1W	47W/1W	35W/1W
年間消費電力	61kWh	56kWh	36kWh
受信チャンネル	VHFch1 ～ ch12/UHFch13 ～ ch62		
	CATV c13 ～ c63		
	地上デジタル 000 ～ 999		
音声出力	2.5W×2		
光デジタル音声出力	− 15 ～− 21dB (mW)、波長 660nm、EIAJ CP-1201 準拠、AAC5.1ch 出力のみ		
液晶パネル　アスペクト比	16:9	16:10	16:9
画素数	1,920×1,080	1,440×900	1,366×768
画面寸法（横 × 縦）	47.7×26.8cm	40.8×25.5cm	34.4×19.4cm
最大色数	1,670 万色		
コントラスト比	1,000:1	1000:1	500:1
視野角　上下／左右	160˚/170˚	160˚/170˚	85˚/110˚
応答速度	5ms	5ms	8ms
接続端子	HDMI 映像音声入力 ×1 D 映像＋ステレオ音声入力 ×1 S- ビデオ映像入力 ×1（コンポジット映像と共用） コンポジット映像十ステレオ音声入力 ×1 PC-VGA 映像十ステレオ昔声入力 ×1 ヘッドホン端子 (32Ω)×1 光デジタル音声出力端子 ×1 地上デジタルアンテナ入力 ×1 アナログアンテナ入力 ×1		
PC 解像度	600 x 480 @ 60/75Hz 800 x 600 @ 60/75Hz 1024 x 768 @ 60/75Hz 1280 x 1024 @ 60/75Hz 1360 x 768 @ 60Hz 1440 x 900 @ 60Hz 1680 x 1050 @ 60Hz 1920 x 1080 @ 60Hz	600 x 480 @ 60/75Hz 800 x 600 @ 60/75Hz 1024 x 768 @ 60/75Hz 1280 x 1024 @ 60/75Hz 1360 x 768 @ 60Hz 1440 x 900 @ 60Hz	600 x 480 @ 60/75Hz 800 x 600 @ 60/75Hz 1024 x 768 @ 60/75Hz 1280 x 1024 @ 60/75Hz 1360 x 768 @ 60Hz
外形寸法(幅×高さ×奥行)	525×425×213mm	443×379×195mm	376×301×160mm
質量	5.8kg	4.9kg	3.1kg
使用環境／保管環境	温度：0℃～ 35℃ / ー 20℃～ 60℃ 湿度：20% ～ 65%RH/10% ～ 90%RH（結露なきこと） 高度：0 ～ 1,980 m /0 ～ 2,980 m		

仕様の一部を予告無く変更することがありますのでご了承ください。

HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interfeace は HDMI Licensing LLC. の登録商標または商標です。

その他記載の会社名および製品名は各社の登録商標または商標です。
当取扱説明書の著作権はバイ・デザイン株式会社に帰属いたします。バイ・デザイン株式会社の許諾なく当取扱説明書の内容の全部または一部を複製、改修したり使用したりすることは著作権法上禁止されております。

22FT11J-B

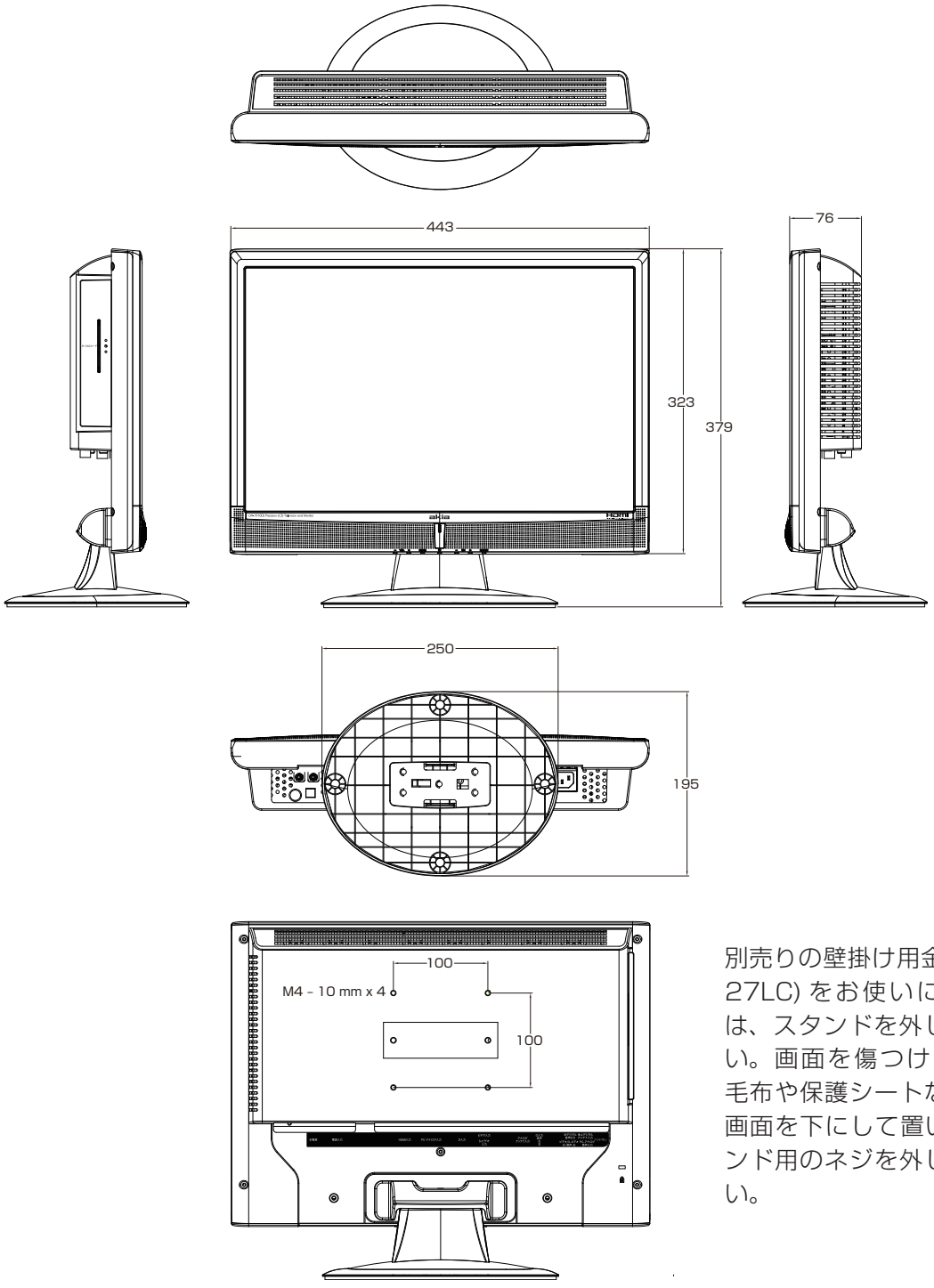


別売りの壁掛け用金具 (SMT-27LC) をお使いになる場合は、スタンドを外してください。画面を傷つけないよう、毛布や保護シートなどの上に画面を下にして置いて、スタンド用のネジを外してください。

単位：mm

主な仕様（つづき）

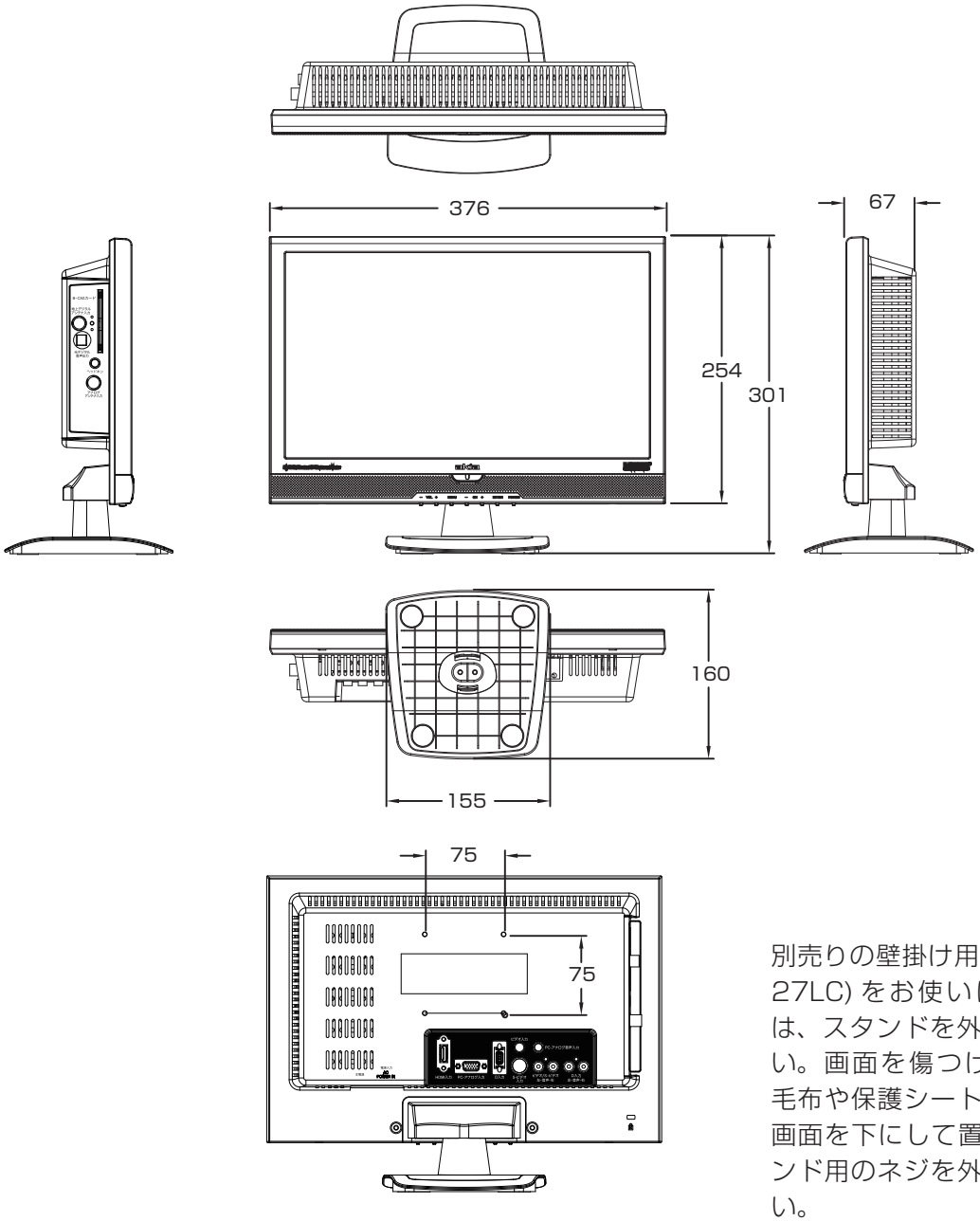
19HT10J-B



別売りの壁掛け用金具 (SMT-27LC) をお使いになる場合は、スタンドを外してください。画面を傷つけないよう、毛布や保護シートなどの上に画面を下にして置いて、スタンド用のネジを外してください。

単位：mm

16HT01J-B



別売りの壁掛け用金具 (SMT-27LC) をお使いになる場合は、スタンドを外してください。画面を傷つけないよう、毛布や保護シートなどの上に画面を下にして置いて、スタンド用のネジを外してください。

単位：mm

アナログ放送チャンネル地域番号

五十音	都市名	地域番号
あ	会津若松	21
	青森	10
	明石	65
	秋田	15
	阿久根	99
	旭川	2
	飯田	45
	石巻	14
	今治	85
	いわき	20
	岩国	80
	宇都宮	24
	宇部	79
	大分	95
	大阪	62
	大館	16
	大津	58
	大牟田	90
	岡山	73
	小樽	7

五十音	都市名	地域番号
あ	小田原	35
	帯広	4
か	海南	69
	鹿児島	98
	金沢	41
	川西	66
	北九州	88
	北見	9
	岐阜	47
	京都	60
	桐生	26
	釧路	5
	熊谷	28
	熊本	94
	久留米	89
	呉	76
	高知	86
	甲府	43
	神戸	63
さ	さいたま	27

五十音	都市名	地域番号
さ	佐賀	91
	佐世保	93
	札幌	1
	静岡	49
	下関	78
	上越	38
	仙台	13
た	高岡	40
	高松	82
	高山	48
	多摩	32
	千葉	29
	津	57
	鶴岡	18
	東京２３区	30
	徳島	81
	鳥取	70
	苫小牧	6
	富山	39
	豊田	56

五十音	都市名	地域番号
た	豊橋	55
な	長崎	92
	長野	44
	名古屋	54
	那覇	100
	奈良	67
	新潟	37
	新居浜	84
	沼津	52
	延岡	97
は	函館	3
	秦野	36
	八王子	31
	八戸	11
	浜田	72
	浜松	50
	彦根	59
	日立	23
	姫路	64
	平塚	34

五十音	都市名	地域番号
は	広島	74
	福井	42
	福岡	87
	福島	19
	福山	75
	富士	51
	藤枝	53
ま	舞鶴	61
	前橋	25
	松江	71
	松本	46
	松山	83
	水戸	22
	宮崎	96
	室蘭	8
	盛岡	12
や	山形	17
	山口	77
	横浜	33
わ	和歌山	68

保証とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではご利用いただけません。
This TV is designed only for use in Japan and cannot be used in any other countries.

保証書について

本機には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、販売店よりお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。

保証期間は、お買い上げの日から 1 年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」をご参照いただき、故障かどうかお調べください。

それでも具合が悪いときは

弊社サポートセンターへお問合せ下さい。

● 電話によるお問い合わせ
受付時間：月曜～金曜　9:00　～ 17:30（祝祭日、年末年始、夏季休業期間を除く）
電話番号：050-5529-0596

● FAX によるお問い合わせ
FAX番号：050-3156-2120
※お客様のご連絡先、型番、購入年月日、お買い上げ店、故障状況を詳しく記載してください。

● メールによるお問い合わせ
ホームページ（URL:http://www.akia.co.jp/）より購入後の製品サポートへお進みください。
受付時間：受付 24 時間。土日・祝祭日を挟んだ場合およびご質問の内容によっては、回答までに日数がかかる場合があります。予めご了承ください。

※ サポート受付に関しては変更させていただく場合がございます。
弊社ホームページでサポート時間などをご確認の上、ご利用されるようお願いいたします。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

本機の不具合･修理など､何らかの原因で､本機のメモリーに保存されたデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復は致しません。あらかじめご了承ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

●　ご相談になるときは以下のことをお知らせください。

型名：22FT11J-B
19HT10J-B
16HT01J-B

使用状況や故障の状態（できるだけ詳しく）：

購入年月日：

年　　月　　日

お買い上げ店

株式会社アキア
〒 297-0217 千葉県長生郡長柄町針ヶ谷 1590 番地3
URL: http://www.akia.co.jp/

本書に記載されている内容は、予告なく変更されることがあります。あらかじめご了承ください。
本書の内容を無断で転載、コピーすることは禁止されております。

© Akia Co., Ltd.

VER.0.0